

二十年六月訓令甲
第二百二十九號ニ
テ削除アリ

分家ノ例

年月日縣郡(町)村族氏名三男分家へ入籍ス

主 戸

氏名

年月日生

絶家廢家再興ノ例

年月日縣郡(町)村族氏名三男當町(絶家)
(廢家)氏名ヲ再興ス

前戸主(絶家)氏名

氏名

年月日生

主 戸

妻ノ前夫ノ跡ヲ繼キタル例

年月日縣郡(町)村平民氏名ニ男入籍年月
日相續

前戸主妻名前夫(亡)氏名

妻名前夫(亡)名相續人

氏名

年月日生

主 戸

姉妹ノ夫ノ(亡)跡ヲ繼キタル例

前戸主姉妹名夫(亡)氏名

廿年五月訓令甲第
百八十一號ニテ家
族ノ列次全文刪除

年月日縣郡(町)村平民氏名三男入籍年月
日相續

戸主
姓名(夫(亡)妻)名相續人
氏名
年月日生

八六

第八條 戸籍簿謄寫ノ上ハ現在戸籍ニ對照ノ讀合ヲ爲シ校正ノ上再ヒ對讀

ヲナスヘシ

但對讀ニハ戸長若クハ代理用係ニ於テ之ヲナシ筆耕雇ノミヲ以テナサ
シムルヲ得ス

第九條 戸籍簿改製中(五月一日ヨリ六月三十日迄)ニ係ル送入籍及異動ハ

諸目錄ニ記載シ置キ戸籍簿ニハ整頓ノ上登記スヘシ

但副本ニハ登記セス送入籍異動届書ヲ添ヘ郡役所ヘ送付スヘシ

第十條 戸籍簿ニハ各自ノ實印ヲ捺捺セシムヘカラス

第十一條 戸籍簿改製ノ費用ハ本年通常聯合町村會ニ於テ議定セシムヘシ

第十二條 戸籍簿改正ノ費用ハ一戸平均金拾錢以内ヲ目的トナスヘシ

第十三條 郡役所戸長役場ニ於テハ戸籍簿改製擔當員ヲ定メ戸長役場ハ郡

役所郡役所ハ縣廳ニ報告スヘシ變更シタルトキ又同シ

第十四條 縣廳ニ於テハ戸籍簿改製中係官ヲ派遣シ檢査セシムルコトアルヘ

シ

第十五條 郡長ハ所轄内ノ戸籍簿整頓ノ上ハ其旨縣廳ニ報告スヘシ

第十六條 受刑者及身代限後見人等ハ別簿ヲ製シ現在戸籍簿ヨリ謄寫スヘ

シ但名簿編製等ノ手續ハ別ニ之レヲ定ム

○訓令甲第四十一號 明治二十年二月四日 郡役所 戸長役場

戸籍取扱心得別冊之通相定ム

但明治十二年(四月)縣乙第十四號及從前ノ達指令等ニシテ本文ニ抵觸

スルモノハ廢止ス

戸籍取扱心得目次

第一章 戸籍

第二章 登記

第三章 送籍入籍

第四章 寄留

戸籍取扱心得

第一章 戸籍

第一條 戸籍簿ノ改製又ハ編製チナシタルトキハ戸長ハ之ヲ郡長ヘ差出シ郡長ニ於テハ點檢ノ上其表紙裏面ヘ第一號書式ニヨリ署名捺印ノ上下付スヘシ

第二條 戸長ハ戸籍簿ノ冊尾ニ就職及解職ノ年月日ヲ記シ捺印スヘシ

但戸長欠員中其職務ヲ取扱ヒタルモノモ亦本文ニ準スヘシ

第三條 戸籍簿住所ノ區畫番地ニハ字名ヲ冠記スヘシ

第四條 戸籍簿ニハ字毎ニ見出ヲ設クヘシ

第五條 戸籍簿正本ハ編綴シ置キ副本ハ編製スヘシ

第六條 戸籍簿ノ表紙ハ厚紙ヲ用ユヘシ

第七條 戸籍簿除籍簿及諸目錄等ノ表紙ハ第二號書式ノ通記載スヘシ

第八條 除籍簿ハ其氏ノ發音ニヨリ(イ)(ロ)(ハ)分チ以テ編綴スヘシ

第九條 戸長ハ單身戸主死亡若クハ失踪逃亡シタルモノアルトキ親族及關

係者ナキモノハ近隣ノモノヨリ其旨告知ノ手續ヲナサシムヘシ

第十條 戸長ニ於テ届書ニヨラスシテ戸籍簿ヲ加除シタルトキハ氏名及件

名等取調翌月異動届書ト共ニ郡役所ヘ送付スヘシ

第十一條 戸籍ニ關スル届書ハ總テ一通トス

第十二條 戸籍簿ノ閱覽ヲ請フモノアルトキハ戸長ノ面前ニ於テ之ヲ許ス

ヘシ

第十三條 戸籍ノ寫ヲ請フモノアルトキハ戸籍用紙ニ謄寫シ紙尾ニ相違ナ

キ旨及年月日ヲ記シ署名捺印ノ上下付スヘシ

第十四條 戸籍上ノ願書ニ戸籍寫ヲ要スルキハ前條ノ戸籍寫ヲ添付セシム
ヘシ

第十五條 裁判所又ハ警察署等ヨリ戸籍寫ヲ要ムルトキハ第十三條ノ通記
載シ送付スヘシ

第二章 登記

第十六條 戸籍簿ノ字體ハ總テ楷書ト片假名トヲ用ユヘシ

第十七條 戸主替ニ付戸籍ヲ改寫シタルトキノ割印位置ハ新舊戸主ノ上部

欄外トス

第十八條 戸長代理ニ於テ戸籍ニ登記シ諸届ニ記入シタルトキハ代理ト記
シ之ニ認印ヲナスヘシ

但割印ハ總テ實印ヲ捺シ其側ニ代理某ト記スヘシ

第十九條 戸主替ニ付テ戸籍ヲ改寫スルトキ死亡送籍等ニテ除籍シタルモノ

ハ登記スヘカラス

第二十條 届出ノ期限ナキモノニシテ戸籍簿ヘ登記スヘキ事項ハ凡ソ左ノ
如シ

- 一 轉籍移住ノ事
- 二 結婚離婚ノ事
- 三 養子女縁女及相續人入籍ノ事
- 四 絶家廢家再興ノ事
- 五 父母ノ他家ヘ再縁ノ事
- 六 分家ノ事
- 七 携帶者入籍ノ事
- 八 私生子引受ノ事
- 九 棄兒引取及引受替入籍ノ事
- 十 附籍者入籍ノ事

十一附籍者別立入籍ノ事

第二十一條 左ノ諸項ハ縣廳又ハ郡役所ノ許可ヲ得タルモノニアラサレハ登記スルヲ得ス

一 亡兄弟ノ遺妻ト結婚ノ事

二 外國人ト結婚ノ事

三 戸主ヲ廢スル事

四 廢嫡ノ事

五 遺留子アル寡婦後夫ヲ迎フル事

六 幼戸主母へ後父ヲ迎へ及戸主ヲ讓ル事

七 幼戸主ノ先代へ養子トシテ相續人ヲ迎フル事

八 家名ヲ廢スル事

九 家女ノ妻ヲ離婚ノ事

十 失踪ノ養子ヲ離縁ノ事

二十年三月訓令甲
第百十五號ニテ更
正アリ

二十二年五月訓令
甲第九十二號ニテ
改正アリ

十一 失踪ノ妻ヲ離婚ノ事

十二 失踪逃亡ノ夫ト離婚ノ事

十三 養戸主義家ヲ離縁ノ事

十四 復姓改名ノ事

十五 士族民籍へ編入ノ事

十六 無籍定籍及漏籍編入ノ事

十七 誤謬加除訂正ノ事

十八 子女ニ非ラサル婦女相續ノ事

十九 戸主失踪逃亡中家族ノ送入籍及異動ノ事

第二十二條 戸籍簿ノ登記戸長ノ失誤ニ係ルモノアルトキハ戸長ヨリ其旨

縣廳へ申立指揮ヲ受ケ訂正スヘシ

第二十三條 戸籍上裁判ヲ受ケ判決ニ依リ其異動ヲ届出ツルモノアリト雖

モ控訴期限内及終審ノ判決アルマテハ一方ノ届ニ據リ登記スヘカラス

但一方ニ於テ控訴セサル旨申出ツルカ又ハ裁判執行ノ命令書ヲ添テ届出ツルモノハ此限リニアラス

第二十四條 戸籍ニ關スル諸届書ノ認印ハ第三號ノ式ニ據ルヘシ

第二十五條 戸籍簿記載ノ例凡ソ左ノ如シ

- 一 尊族及弟又ハ妹ヘ夫ヲ迎ヘ相續セシムルモノハ總テ相續人ト記載スヘシ
- 二 養子ハ家名繼承セシムルモノヲ養嗣子其他ハ養子ト記載スヘシ
- 三 家女ノ妻ヲ離婚シタルトキハ養父ノ繼柄ヲ記載スヘシ
- 四 遺留ノ子女幼少ニシテ寡婦ヘ後夫ヲ迎ヘ相續シタルトキハ妻名先夫亡名幾男女ト記載スヘシ
- 五 私生ノ子女其父母結婚スルトキハ私生ノ二字ヲ抹スヘシ
- 六 私生ノ子男子己レノ子ト認メ許可ヲ得且己レノ籍ニ編入スルトキハ庶子ト書シ庶子中長幼ノ順序ヲ以テ嫡出ノ子ノ次ニ列記スヘシ

二十二年二月訓令
第十七號ヲ以テ
第七項刪除セラレ

八 婦女ニシテ夫家ヲ相續スルトキハ夫家ノ氏ヲ記載スヘシ

九 双子三子ハ先ニ生レタルヲ(兄)(姉)トシ後ニ生レタルヲ(弟)(妹)ト記載スヘシ

十 配偶スヘキ婦女ニシテ未結婚ノ者同籍中ニアルトキハ總テ長次男名縁女ト記載スヘシ

第三章 送籍入籍

第二十六條 送籍狀及入籍報知書ハ本人ニ下付スヘカラス

第二十七條 送籍者徴兵ニ關スルトキハ徴集猶豫ノ區別等取調送籍狀ニ添付スヘシ

第二十八條 入籍者其居住地ヲ指定セサルトキハ町村ノ冊尾ニ編入スヘシ

第二十九條 家族ノ入籍ハ列次ニ拘ハラス餘白ヨリ逐次ニ編入スヘシ

第三十條 同居及附籍戸主ハ同居及附籍主戸籍ノ次葉ヘ編入スヘシ

第三十一條 受籍者身分其他ノ事項等不明ナルトキハ原籍戸長ヘ照會シ然

ル上編入スヘシ

第三十二條 無籍在監人放免ノトキ典獄ノ通知書ヲ携帶シ入籍ヲ願出ツル
トキハ本人望ノ地ニ編入スヘシ

第三十三條 復籍スルモノニシテ生家退轉シ住所ヲ指定セサルトキハ其町
村ノ冊尾ニ編入スヘシ

第三十四條 棄兒ノ就籍ハ町村ノ冊尾ニ編入スヘシ

第四章 寄留

第三十五條 入寄留中一世帯ヲナサハルモノハ寄留主毎ニ別葉ニ記載スヘ
シ

第三十六條 寄簿及除帳簿表紙ハ第四號書式ノ通記載スヘシ

第三十七條 除帳簿ハ其氏ノ發音ニヨリ(イ)(ロ)(ハ)分ケテ以テ編綴スヘ
シ

第一號書式

「郡役所朱印

檢査

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年 | 號 | 月 | 日 |
|---|---|---|---|

福島縣何郡長氏名印

第二號書式

明治年月日改製

戸籍簿

除籍簿

除籍目錄

加籍目錄

異動目錄

縣郡(町)村

一町村ヲ數冊ニ分ツトキハ
 何冊ノ内(一)(二)(三)
 「朱字

第三號書式

| | | |
|---------------|---------------|-----------|
| 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 |
| 分 | 八 | 一 |
| 年 月 日 印 戸籍登記済 | 年 月 日 印 目錄登記済 | 年 月 日 印 受 |

第四號書式

明治年月日 改製

他府縣ノ部

入寄留簿

他郡ノ部

入寄留簿

他府縣ノ部

出寄留簿

他郡ノ部

戸籍

出寄留簿

他府縣ノ部

除帳簿

他郡ノ部

除帳簿

縣郡(町)村

○訓令甲第四十二號 明治二十年二月四日 郡役所 戸長役場

受刑者及身代限後見人名簿編製加除手續別紙ノ通相定ム

(別紙)

凡例

△印ハ朱書

一 受刑者名簿ハ重罪輕懲罪及罰ニ處セラレタルモノ又ハ特赦放免ノモノハ裁判所警察署又ハ典獄等ヨリ通知ヲ受ケタルトキ記入スヘシ

一 身代限名簿ハ身代限ノ處分ヲ受ケ又ハ負債ノ辨償ノ終リタル旨裁判所ノ通知又ハ原告ノ届出ニヨリ加除スヘシ

一 町村ヲ數冊ニ分ツトキハ何冊ノ内(一)(二)(三)「朱字」

一 後見人名簿ハ親族又ハ關係人ノ届出ニヨリ加除スヘシ

受刑者名簿

年月日何裁判所ニ於テ何犯ニヨリ輕(重)禁錮何年ニ處セラルル印 何(町)村字番地 族 氏 名

△年月日特赦放免印

年月日何警察署ニ於テ賭博犯ニ 郡(町)村字番地

ヨリ懲罰何年ニ處セラルル印 族 氏 名

身代限名簿

年月年何裁判所ニ於テ身代限 郡(町)村字番地

ノ處分ヲ受ケタリ印 族 氏 名 一ハ朱

△年月日負債ノ辨償ヲ終ヘタル旨届出印

後見人名簿

郡(町)村字番地氏名

懲罰令ハ廢止セラ

後見人

郡(町)村字番地

年月日撰定ノ旨届出印 族 氏 名 一ハ朱

△年月日解任ノ旨届出印

○訓令甲第七十二號 明治二十年二月廿五日 郡役所 戸長役場

寄留者取扱方左ノ通心得ヘシ

一 寄留本人ノ内戸主ニアラサル者コテ實印ヲ所持セス若クハ其氏名ヲ記スル能ハサルトキハ無印シ又ハ代書シ其旨ヲ氏名ノ傍ニ附記(幼少ニ付代書或ハ實印無之ノ類)シテ届出必ス署印スルニ及ハス

但現ニ後見人アル幼者ハ其後見人幼者ニ代リ届出ヘシ

一 學校及ヒ會社其他農商家等同所ニ數人寄留シタル場合ニ在ツテハ每人各自ニ寄留届ヲ爲スヲ要セス一同一紙ニ連署シテ届出ルモ妨ケナシ

一 公私ノ用ニテ最初ヨリ寄留スル者及學校寄宿生婢僕ノ類ハ寄宿シタル當

日ヨリ十日以内ニ届出ヘキハ勿論ナリト雖最初ヨリ寄留スルニアラスシ
 テ一時逗留スル者等ハ其逗留九十日過キタルトキニ於テ寄留之取扱トナ
 ルモノナレハ其寄留トナリタル日即チ九十日目ヨリ起算シ十日以内ニ寄
 留ノ届出ヲ爲スヘキモノトス

一省令第十九號第六條中ノ寄留者及ヒ地主云々トアルハ寄留シタル者ト寄
 留人ヲ置キタル地主又ハ家主又ハ其地其家ノ管理者（執事差配人支配人
 看守人取扱人等ノ類）ト双方ヨリ届出ツヘシトノ趣意ニテ其届書ハ双方
 ヨリ別々ニスルモ又一紙ニ連署シテ届出ルモ妨ケナシ

○報告
 明治二十年三月卅一日

一甲第一〇七號
 戸籍取扱心得第二十一條第十六項無籍定籍及漏籍編入トハ明治五年戸籍編
 制以前ノ分ニ有之候條爲御心得此段及報告候也

○訓令甲第七十六號
 明治二十年三月一日
 戸長役場

監獄看守志願者ヨリ身分証書ヲ請求スルキハ左之様式ニ倣ヒ其証明書ヲ附
 與スヘシ

| | |
|-------|--|
| 身分証書 | |
| 本籍 | 何府縣何國何區郡何町番地 <small>何某同居或ハ附籍</small> |
| 出生地 | 何府縣何國何區郡何町番地 <small>何某同居或ハ附籍</small> |
| 現住ノ地 | 何府縣何國何區郡何町番地 <small>何某同居或ハ附籍</small> |
| 族籍 | 何ノ某 |
| 職業 | 何ノ某 |
| 氏名 | 何國何郡何村ノ産 |
| 出生年月日 | 何年何月生 |
| 賞罰ノ有無 | 賞 罰 |
| 妻子ノ有無 | 何府縣 <small>士族平民</small> 某長女(姉)(妹) 妻 某 出生年月日 |
| 有無 | 男子 女子 |

| | | | |
|-----------|--------------------------------|--------------------|----------|
| 父兄ノ 有無 | 本籍及現住ノ地 | 氏 | 名出生年月日 |
| | 何府縣何郡區何町村番地 當時何府縣何郡區何町村番地寄留 | 父(養)(存)(亡)某何年何月何日生 | 某何年何月何日生 |
| 同 | 同 | 兄 | 同 |
| 同 | 同 | 同 | 同 |

右之通相違無之候也

何縣何郡區何町村

明治何年何月何日

戶長氏名印

○庶第一二七號

明治二十年四月八日

內務省令第二十二號戶籍取扱手續第十五條ノ諸届ハ戶籍改製前ト雖モ郡役所へ送付スヘキ筋ニ付爲御心得及報告候也

○告示第七十八號

明治二十年四月廿八日

戶籍ニ關スル諸届書式左ノ通

寄留届

府(縣)郡(區)町(村)字番地族
父名幾男(女)(戶主)戶主名弟(妹)

郡町(村)字番地持家(借地) 氏 名
(借家)氏名方寄留氏名方寄留 年月日生
(家族アルモノハ以下列記スヘシ)

右何年何月何日ヨリ寄留致候此段及御届候也

年月日 右戶主(世帶主) 氏 名印

郡町(村)字番地族
地主 氏 名印
家主 氏 名印
管理者

郡町(村)字番地族
郡町(村)字番地持家(借地)(借家)寄留
戶主(世帶主) 氏 名印

郡町(村)戸長氏名殿

(名宛以下之レニ同シ)

寄留者退去届

府(縣)郡(區)町(村)字番地族

父名幾男(女)戸主(戸主名弟)(妹)

氏名

年月日生

右郡町(村)字番地持家(借地借家氏名方寄留氏名方)寄留之處何年何月何日退去致候此段及御届候也

右本人(地主)(家主)(管理者)

年月日 氏名印

寄留者歸町(村)届

郡町(村)字番地族

父名幾男(女)戸主(戸主名弟)(妹)

氏名

年月日生

右府(縣)郡(區)町(村)字番地持家(借地借家氏名方寄留氏名方)寄留之處何年何月何日歸町(村)致候此段及御届候也

年月日 右戸主 氏名印

寄留換届

府(縣)郡(區)町(村)字番地族

父名幾男(女)戸主(戸主名弟)(妹)

氏名

年月日生

郡町(村)字番地持家

(借地)(借家)(氏名方寄留氏名方)寄留

(右同斷)

右郡町(村)字番地持家(借地借家氏名方寄留氏名方)寄留之處何年何月何

日ヨリ前記之通寄留換致候此段及御届候也

届人前ニ同シ

出生届

(寄留者ニアラサルモ
ノハ此届書ヲ除ク)

府(縣)郡(區)町(村)字番地族
當時郡町(村)字番地持家借地借家氏名方寄留氏名方寄留

氏名(長男)戸主

父 氏 名

母 妻(婦) 名

長男(孫) 名

右何年何月何日出生致候此段及御届候也

年月日 右戸主 氏 名印

結婚(縁組)届

郡町(村)字番地族氏名婦(縁女)

長(二)男名妻(縁女)

名

年月日生

右府(縣)郡(區)町(村)字番地族氏名何女ヲ娶リ(貰請)候此段及御届候也

年月日 右戸主 氏 名印

(同戸長役場管内ハ双方連署スルモ妨ケナシ)

縁組届

郡町(村)字番地族氏名

養子(女)

名

年月日生

右府(縣)郡(區)町(村)字番地族氏名幾男(女)養子(女)ニ貰請候此段及御届候也

年月日

右戸主

氏

名印

(右同斷)

離縁届

郡町(村)字番地族氏名

幾男(女)

名

年月日生

右府(縣)郡(區)町(村)字番地族氏名養子(女)(妻)離縁復籍致候此段及御届候也

年月日

右戸主

氏

名印

(右同斷)

絶家(廢家)再興届

郡町(村)字番地族氏名

幾男(女)

氏

名

年月日生

右府(縣)郡(區)町(村)字番地絶家(廢家)何氏ヲ再興致候此段及御届候也

年月日

右戸主

氏

名印

轉住届

郡町(村)字番地族

氏

名

年月日生

年月日府(縣)郡町(村)字番地族氏名何女子娶ル

妻

名

年月日生

(家族アルモノハ以下列記スヘシ)

右府(縣)郡(區)町(村)字番地へ(ヨリ)轉住致候此段及御届候也

年月日 右 氏 名印

離縁届

郡町(村)字番地族氏名

養子(女)(妻)

名

年月日生

府(縣)郡(區)町(村)字番地族氏名幾男(女)

右離縁(婚)致候此段及御届候也

年月日 右戸主 氏 名印

(同戸長役場管内ハ双方連署スルモ妨ケナシ)

分家届

郡町(村)字番地族氏名

幾男(女)

名

年月日生

右府(縣)郡(區)町(村)番地へ分家致候此段及御届候也

年月日 右戸主 氏 名印

附籍届

郡町(村)字番地族氏名

幾男(女)

名

年月日生

右府(縣)郡(區)町(村)字番地氏名方へ附籍致候此段及御届候也

年月日 右戸主 氏 名印

失踪(復歸)届

郡町(村)字番地族氏名
幾男(女)

名

右何年何月何日失踪(之處復歸)致候此段及御届候也

年月日

右戸主

氏

名印

相續届

郡町(村)字番地族父氏名(亡)幾男

名

何月何日隠居(死亡)候ニ付家督(跡)相續致候此段及御届候也

年月日

右

氏

名印

嗣子(相續人)届

郡町(村)字番地族氏名

幾男(養子)(弟)

名

右嗣子(相續人)ニ相定候間此段及御届候也

年月日

右戸主

氏

名印

何々届

郡町(村)字番地族氏名

幾男(女)

名

何々ノ義年月日願濟
右頭書之通御許可相成候此段及御届候也

年月日

右戸主

氏

名印

○訓令甲第二百一號 明治二十年五月卅一日

郡役所

各町村別人口及戸數明治十九年十二月三十一日調ヲ以テ左ノ表ヲ製シ六月十五日當廳ニ到達候様差出スヘシ

但自今年十二月三十一日現在調翌年二月十五期限差出スヘシ

町村長ハ郡長ヘ報
告スヘキモノナリ

某郡町村別戸數及人口調 明治十九年十二月三十一日調

| 町村名 | 本籍戸數 | 男本籍人 | | 同上合計 | 現在戸數 | 男現住人 | | 同上合計 |
|-----|------|------|---|------|------|------|---|------|
| | | 男 | 女 | | | 男 | 女 | |
| 合計 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

右報告候也

明治年月日

知事宛

郡長

氏

名

○本縣警乙第一六五號

明治二十年六月廿五日

死亡ノ申告ヲナサ、ル者處分方ノ儀ニ付徳島縣伺ニ對シ左之通訓令相成候
趣内務省書配官ヨリ通牒有之條此旨心得ヘシ

(參考)

死亡ノ申告ヲ爲サ、ル者處分

本籍地ニテ死亡シタル場合ニ於テ其届書ヲ爲サ、ルキハ單ニ刑法第四百
二十七條第十項ニ依リ處分シ本籍地外ニテ死亡シタル場合ニ於テ現在地
ニ届出サル廉ハ十九年内務省令第十九號ニ依リ處分シ又現在地ニ届出タ
ルモ本籍地ニ届出サルキハ單ニ省令ニ依リ本籍地ニ届出サルキハ單ニ刑
法ニ依リ處セラレシ

(參考)省令第十九號違犯者ノ罪質

明治十九年内務省令第十九號ノ各條ニ届出期アル事項ノ届出ヲ怠タル
者ハ何ケ月ヲ經過スルモ繼續犯トシ處罰セラレ、モノナリ

○訓令甲第二百二十六號

明治二十年六月廿五日

郡役所

自今有位者(華族ヲ除ク)改姓名貫屬替又ハ死去セントキハ其願届テ取扱
ル郡長ヨリ直ニ宮内省華族局へ通牒スヘシ

○報告 第一部長ヨリ各郡長へ 明治二十年六月廿九日

養家ノ兄弟姉妹ハ續柄へ養兄弟姉妹ト記載スヘキ筈ニ付爲御心得報告候也

○訓令甲第二百四十四號 明治二十年七月八日 郡役所 戸長役場

戸長ニ於テ失踪逃亡及ヒ復歸又ハ全戸死亡ノ届書ヲ受領シタルキハ即時左
ノ通取扱フヘシ

一失踪逃亡及ヒ復歸ノ者ハ其族籍氏名生年月日等取調所轄警察署又ハ分署
へ報告スヘシ

一全戸失踪逃亡又ハ死亡ノ者ニシテ遺留財産アルモノハ相當ノ取締ヲナシ
其族籍氏名等取調郡長へ報告スヘシ

一郡長ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルキハ財産保管ノ手續ヲ爲スヘシ

○馬第三八七號 (報告) 明治二十年八月十六日

戸籍法列次中子以下左ノ通其筋回答有之候ニ付命ニヨリ此段申進候也

但本文ニ抵觸ノモノト雖モ改製濟之分ハ代換改寫ノキ更正相成可然存候

一養子女ハ實子ノ次

但男女及ヒ嗣子ト否トニ拘ハラヌ年ノ長幼ニヨル

二兄弟姉妹ハ年ノ長幼ニヨル

三兄弟姉妹以下夫妻ノ子ハ父母ノ次位

但妻ハ總テ夫ノ上ニ列スルヲ得ス

○訓令甲第三百十號 明治二十年十月廿八日 郡役所 戸長役場

戸籍ニ關スル届出事項ノ内失踪ハ届出期限ナキモノニ付戸籍取扱手續第八

條ニ依ルキハ其事項ト届出年月日ヲ登記スヘキモノニシテ登記書式第一ノ

十四行上欄ニ年月日失踪トアルモ右ハ年月日失踪チ一ノ届出事項ト爲スノ

旨趣ニ有之候ニ付登記目錄書式第十五管内異動目錄異動ノ部第十一項ノ通

年月日失踪年月日届出ト登記スル儀ト心得可シ

○訓令甲第三百十二號 明治二十年十一月一日 郡役所 戸長役場
自今年期ヲ定メ外國船へ乗組ノ約ヲ爲シ海外旅券下附願出候者ノ中徴兵徵
集相當ノ資格ヲ有シ其年期中適齡トナルヘキ者ヘハ該旅券付與不相成ニ付
該券下付ノ件ニ付証明願出候者有之候節ハ其旨指示スヘシ

○縣令甲第三百三十二號 明治二十年十二月三日
郡内寄留及町村内別居並ニ同居者届出方左ノ通相定メ本年十二月十五日ヨ
リ施行ス

但從前届出ヲ爲サルモノハ本文同様届出ヘシ

第一條 郡内他町村ニ寄留シタルキハ寄留者ヨリ十日以内ニ戸長ニ届出ヘ
シ但他戸長役場所轄町村内ニ寄留シタルキハ同時ニ本籍地戸長ニ届出ヘ
第二條 寄留者其寄留地ヲ去リタルキハ十日以内ニ戸長ニ届出ヘシ但他戸
長役場所轄町村ニ係ルモノハ同時ニ本籍地戸長ニ届出ヘシ

第三條 本籍ノ町村内ニ於テ戸主家族ヲ問ハズ別居若シハ同居シタル者ハ
十日以内ニ戸長ニ届出ヘシ

第四條 第三條ノ者ニシテ復歸若シハ移轉シタルキハ十日以内ニ戸長ニ届
出ヘシ

○訓令甲第三百三十七號 明治二十年十二月三日 郡役所 戸長役場
今般縣令甲第三百三十二號ヲ以テ郡内寄留及町村内別居同居届出方相定メ候
ニ付テハ帳簿編製加除ノ儀ハ明治十九年(十一月)訓令甲第五百五十七號中他
郡寄留簿書式ニ準シ調理スヘシ

但郡内寄留簿ト町村内別居及ヒ同居簿トハ便宜合綴シ見出ヲ付スルモ妨
ケナシ

○訓令甲第三百三十八號 明治二十年十二月三日 郡役所 戸長役場
戸長ハ本年十二月十日ヨリ同二十八日マテノ間ニ於テ戸籍簿寄留簿等ト現
在戸口トテ照査シ遺漏重複等アル者ハ各其手續ヲ履マシメ訂正ヲ加ヘ異動

表相添へ明治二十一年一月三十一日限り有無共具申スヘシ

○訓令庶秘第十一號 明治二十年十二月六日 郡長

他府縣他郡へ寄留シタルキハ客年内務省令第十九號揭示ノ通寄留地及戶籍地戶長ニ可届出ハ勿論ニ候處本年各郡ヨリ進達シタル戶籍人口出入表ヲ閱スルニ當管内入寄留ト出寄留トニ於テ三千三百有余ノ差違ヲ見ルニ至リ是レ畢竟出寄留届出ヲ怠ルニ職由スルモノト認候條自今本縣内他郡又ハ他戶長役場所轄町村ニ係ル入寄留者ノ届出ヲ受領シタルキハ本籍地戶長ニ其事實ヲ照會シ寄留地へノミ届出本籍地へ届出ヲナササルカ如キ弊ナカラシムル様取計フヘシ

○訓令甲第三百三十九號 明治二十年十二月 郡役所 戶長役場

本縣報告例年報第六十二項ヨリ第六十九項及第七十四項ヨリ第七十八項ニ至ル戶口ニ關スル統計材料左ノ通調査例ニヨリ調査スヘシ

(明治二十一年十二月訓令甲第九十七號ヲ以テ第六十二項ヨリ第六十

九項迄戶籍表ノ分改正)

●人員統計材料調査例 (本縣報告例年報第七十四項ヨリ第七十八項ニ至ル)

第一 現住夫婦及結婚離婚 (戶籍簿寄留簿登記目錄ヨリ拾集)

- 一 現住トハ本籍人ニ其他ノ出入即チ管内外出入寄留及在營兵逃亡失踪外國行等ヲ加除シタルモノニシテ現住夫婦トハ其現住人中ノ夫婦組數ヲ調査スルモノトス

- 一 結婚組數ハ現住者ニ係ル事實ヲ調査シ入籍シタル方ニテ記入スルモノトス

- 一 離婚組數モ亦現住者ニ係ル事實ヲ調査シ送籍シタル方ニテ記入スルモノトス

- 一 夫婦數ハ其年十二月三十一日現在ニシテ結婚離婚ノ數ハ其年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ結婚離婚セシ數ヲ記入スルモノナルカ故ニ其年結婚セシ數ハ夫婦中ニ算入シ離婚セシ數ハ除キタルモノトス

一結婚離婚共其人數ニアラス故ニ一人ニシテ再度結婚、離婚ヲ爲シタル者ハニタヒ此數コ入ルヘシ

一再掲ノ市街ハ福島、二本松、若松、白河ノ四ヶ所ヲ指ス而シテ其事實ヲ記入スルニハ先ツ一郡ノ事實ヲ記入シ更ニ再ヒ市街ニ係ル分ノミヲ掲クルモノトス

一市街現住人ヲ知ルコハ戸籍第一表調査例ニ説明シタルニ同シ

一本表及出産并死亡ノ表中ニ記入スヘキ現住人百ニ付テノ比例ハ其年十

二月三十一日現在ノ現住人員ヲ以テ算出シ寄零數ハ毛位ヲ四捨五入スヘシ

第二 現住結婚者年齢ノ對照 (同上)

一現住者ニ係ル結婚ノ事實ニシテ第一表ノ結婚數ヲ其人ノ年齢ニ依リ對照シタルモノトス例之十五年ノ女ト十八年ノ男ト結婚シタル者一組アルキハ男年齢十八年ノ下ニシテ女ノ年齢十五年ニ當ル欄ニ一ト記入ス

ルカ如シ

故ニ男合計ニ就テ見ルキハ男ノ結婚人員ト其年齢別ヲ知り女合計ニ就テ見ルキハ女ノ結婚人員ト其年齢別ヲ知り得可シ

第三 現住者ノ出産 (同上)

一本表ハ現住者ニ係ル出産兒數ヲ記入スルモノトス戸籍第五表中ノ出産

ハ本籍ニ係ル事實ナレトモ出産及其區別ノ解ハ同説明ニ依ルヘシ

一入寄留者ニシテ其地ニ於テ出産シ後退去セシ者ト雖モ亦此數ニ記入スヘシ

第四 現住者ノ死亡 (同上)

一戸籍第五表中ノ死亡ハ本籍ニ係ル事實本表ノ死亡ハ現住者ニ係ル事實ナリ

一自殺トハ投身、縊死其他ノ手段ニ依リ自ラ企テ死シタル者變死トハ溺死、壓死其地ノ怪我ニ依リテ死シタル者ヲ云フ

一病死トハ報告例年報第九十七表第一類ヨリ第九類ニ至ルマテ及第十一類ノ諸症ニテ死シタルモノヲ云フ
 一右年報ノ數ト本表ノ數トハ常ニ同シキモノニアラス本表ハ現住者ニ係ル事實コソテ年報ハ埋火葬認許證ヲ與ヘタル事實ヲ記入スルモノナルニ注意スヘシ

第五 現住者ノ年齢 (同上)

一本表ハ現住者ノ年齢ヲ調査スルモノニシテ年號何年生ト記スルハ調査ノ便ヲ計リテナリ而シテ其年次ノ排列ハ戶籍第四表ノ例ニ據ルヘシ
 一生年不詳ノモノハ最終ニ掲ケ生年詳カナラサル棄兒ハ推測ニ依テ記入スヘシ

(表式ハ略之但用紙ハ毎年縣廳ニ於テ各郡ヘ配布セラル、趣ニ承知セリ)

○訓令甲第三百二號

明治二十年十月十五日

郡役所

戶長役場

明治十九年(七月)乙第四十五號達及本縣報告例年報第六十二項ヨリ第六十九項ニ至ル戶籍統計諸表ハ最モ鄭重ヲ要スヘキニ付當廳主任ヲ派遣シ原料ニ就キ臨時檢査セシム

○訓令甲第十號

明治二十一年一月二十五日

郡役所

客年(十二月)訓令甲第三百三十八號戶籍上屆漏異動表ハ一郡限リ統計ノ上二月十五日戶籍表ヘ添ヒ差出スヘシ

○本縣第一部長通知

明治廿一年二月廿七日

明治十九年內務省令第十九號ニ係ル期限事項ノ屆出ヲ怠タル者ハ何ヶ月經過スルモ繼續犯トシテ處分スヘキ趣旨ニ有之候間命ニヨリ(以下略ス)

○訓令甲第八十三號

明治廿二年四月十八日

戶長役場

行旅死亡人及行旅病人取扱心得左之通相定ム
 但明治十八年(五月)丁第三十九號達及十九年(一月)丁第三號達ハ廢止ス
 行旅死亡人及行旅病人取扱心得

明治二十一年六月
八日訓令甲第百三
十四號ヲ以テ追加

- 第一條 行旅死亡人及行旅病人取扱規則第二條ノ本籍詳ナルモノハ第一號
- 第二號其他取扱頭末書并ニ正當受取人ノ証書ヲ添ヘ直チニ通報スヘシ
但倒死變死ニ係ルモノハ立會醫師ノ檢案書ヲ添付スヘシ
- 第二條 取扱規則第三條本籍不詳ノモノハ第一條ノ書類（正當受取人証書
ヲ除ク）ヲ添ヘ第三號ヨリ公告滿期後直チニ其費用ヲ請求スヘシ
- 第三條 行旅病人ニシテ重症饑餓ニ迫マリ他ニ救助スルモノナク目下難捨
置モノニ限リ所在地戸長ハ相當ノ救護ヲ加ヘ其住所氏名ヲ聞糺シ本籍詳
ナルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ引取方直チニ其戸長ヘ照會スヘシ
- 第四條 第三條ノ救護費本人ニ於テ辨償シ能ハサルトキハ第一號書類及正
當受取人ノ証書（本人ノ所持金又ハ物品ヲ以テ其幾分ヲ辨償ノ場合ニハ
其明細計算書）ヲ添ヘ本籍戸長ヘ辨償方ヲ照會スヘシ其本籍不詳ノモノ
ハ第二條ニ準シ費用ヲ請求スヘシ
- 第五條 行旅死亡人及ヒ行旅病人取扱費辨償方ノ照會ヲ受ケタルハ其家

- ニ通示シ辨償セシムヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルハ戸主若
シクハ親族ヨリ出願セシメ之ニ該費償却ノ照會書其他第一號書類ヲ添ヘ
直チニ其費用ヲ請求スヘシ
- 第六條 第五條ノ出願ニ對シ戸長ハ家元財産ノ有無等詳密取調之カ証明書
ヲ添付スヘシ
- 第七條 第一條第三條ノ本籍戸長ヘ對シ往復數回ニ及ト雖モ急速完了ノ見
込無之場合ニ於テハ其旨當廳ヘ具申スヘシ
- 第八條 第三條ノ救護數月ニ涉ルルハ之カ費用ハ二ヶ月毎ニ請求シ併セテ
其都度疾病ノ狀況詳細具申スヘシ
- 第九條 本籍不詳死亡人ノ餘額金ヲ保管スル場合ハ計算書ヲ添ヘ届出ツヘ
シ
- 第十條 行旅死亡人及ヒ行旅病人取扱費ハ可成節減ヲ加ヘ左ノ定額以內ヲ
以テ支辨スヘシ

- 一 藥價 一日金六錢以內
 - 一 賄料 一度金三錢五厘以內
 - 一 看護人 二人以內トス
 - 一 醫師診察料 一度金貳拾錢以內
 - 一 小屋 金五拾錢以內
 - 一 小屋造人夫 一人トス
 - 一 死休番人 二人以內トス
 - 一 埋葬人夫 三人以內トス
 - 一 棺桶棒繩共 金五拾錢以內
- 但一人ニ付一日金拾八錢以內
- 但一人ニ付晝金拾八錢夜貳拾五錢以內
- 但一人ニ付金三拾錢以內

第一號

一 墓標 金三錢以內

一 揭示札 金三錢以內

行旅死亡人取扱(行旅病人)諸費計算書

| 名 | 稱 | 員 | 數 | 一個代金 | 金 | 員 |
|-----------------|---|---|---|------|---|---|
| 第十條ニ掲 ル名稱ニヨル | | | | | | |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 |
| 合計金 | | | | | | |

右之通相違無之候也

年月日

第二號

縣郡町村戸長 氏 名印

行旅死亡人遺金并遺物公賣代金仕譯書

府縣郡區町村生

氏名

生年月

(本籍又ハ氏名不詳)

代金何程

一何々

一、、、

一、、、

一、、、

計金何程

外ニ遺金何程

合計金何程

右之通相違無之候也

年月日 縣郡町村戸長 氏名印

第三號

行旅死亡人取扱(行旅病人)諸費請求書

府縣郡町村生

氏名

生年月

(本籍又ハ氏名不詳)

一金何程

内

金何程 地方税ヨリ御下渡可相成分

金何程 本人遺金又ハ遺物公賣代金ヲ以テ差繼分

右者旅行中何年月日何府縣郡區町村ニ於テ(病死變死)致候處(又ハ重症飢餓ニ迫リ一時救護取計候處)(假埋葬費若クハ重症飢餓ニ迫リ救護ヲ受ケシ

費用前書之通該町村戸長ヨリ通知越候處本籍不詳ノ者ニ付(又ハ別紙出願之通家元赤貧ニシテ到底辨償難致ニ付)右取扱諸費地方稅ヨリ御下渡相成度關係書類相添此段及請求候也

年月日

縣郡町村戸長

氏

名印

縣知事宛

○訓令甲第三百三十六號

明治二十一年六月九日

戸長役場

明治十九年甲第百七十一號訓令中官有地所ノ管理者ハ自今其町村戸長ヲ以テ之ニ充ツ

○訓令甲第百五十五號

明治廿一年七月廿六日

郡役所 戸長役場

失踪又ハ死亡跡遺留財産ヲ其親族ニ於テ保管スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ協議ヲ以テ賣却交換若シハ質入書入等ヲナサントスルキハ不動産ニ就テ自今都テ管轄始審裁判所ノ認許ヲ受ケシムヘキ儀ト心得ヘシ
但明治十七年(五月)庶第四九七號達ニ廢止ス

○訓令甲第百六十四號

明治廿一年八月十六日

戸長役場

明治二十年(二月)內務省訓令第三號中位官勳等前科ノ有無調査方區役所戸長役場ニ於テ爲取扱候儀ハ自今相廢スヘシ云々ト有之候處右ハ從前諸裁判所又ハ檢事ノ照會ニ對シ戸籍ニ據リ位官勳等前科ノ有無ヲ証明シタル取扱方ヲ廢セラレタル儀ニシテ警察官吏ヨリ前科ノ有無及其他ノ事項調査方照會スル場合ニ在テハ從前ノ通取扱フ儀ト心得ヘシ

○甲第百九十六號

明治廿一年十二月八日

郡役所

戸長役場

親族又ハ戸長ニ於テ保管スル失踪逃亡并死亡者ノ遺留財産處分ニ付從前始審裁判所ノ認許ヲ經タルモノハ自今始審裁判所在地ヲ除ク外管轄治安裁判所ニ認許ヲ乞フヲ得ヘキ義ト心得ヘシ

○甲第百九十七號

明治廿一年十二月八日

郡役所

戸長役場

明治十九年(七月)乙第四十五號及明治二十年十二月訓令甲第三百三十九號中戸籍表調査例左之通更定候條前年分ヲ調査シ毎年戸長ハ一月末日限郡長

ニ郡長ハ二月十五日限當廳ニ報告ス可ク

戸口表

(明治何年十二月卅一日現在)

| 郡名 | 本籍 | | 合計 | 現住戸數 |
|------|----|---|----|------|
| | 男 | 女 | | |
| 再掲市街 | | | | |

一本表ハ一郡毎ニ本籍人及現住戸數ヲ調査記入スヘキモノトス以下郡名ヲ掲グル諸表ハ總テ一郡毎ニ記載ス可シ

一本籍人トハ其調査ノ地ニ定籍スル者ヲ總稱ス故ニ管内外出寄留旅行失踪等ノ爲メ現ニ其地ニ住居セサルモ除籍セサル者ハ總テ此内ニ算入ス可シ

一現住戸數ノ欄ニハ本籍ナル者ト本籍ナラサル者ト又戸主タル者ト戸主ナラサル者トニ問ハス渾テ其地ニ現住シテ一世帯ヲナス竈數ヲ記入ス

人口出入表

(明治何年十二月三十一日現在)

| 郡名 | 出 | | | | 入 | | |
|------|-----|--------|--------|-----------|-------|---------|---------|
| | 外國行 | 管外へ出寄留 | 管内へ出寄留 | 海陸軍在營繼現役兵 | 在監獄囚人 | 管外ヨリ入寄留 | 管内ヨリ入寄留 |
| 再掲市街 | | | | | | | |

一本表ハ調査ノ時即チ十二月三十一日其他人口出入ノ現在ヲ調査スルモ

可成但官舎社寺學校病院製造所等ハ構内ニ居住スル者別ニ電簿ヲ爲ス者ハ亦一戸トシテ之ヲ記入ス可シ

一再掲市街ノ欄ニハ本籍人一万以上アル地及本籍人ヲ本トシ次表ノ出ヲ除キ入ヲ加ヘテ現住人凡ソ一万以上アル地ノ本籍人並ニ現住戸數ヲ掲シ可シ

一數町村ノ連擔ヨリ成立チ別ニ之カ公稱ヲ付サルモ北會津郡若松甲賀町外十三ヶ町ノ如キハ合シ若松市街トナシ調査ス可シ

ノニシテ其年中ノ出入ヲ算入スルモノコアラズ

一外國行ノ欄ニハ外國ニ行キタル者又管外へ出寄留ノ欄ニハ他府縣ニ出テ住スル者又管内へ出寄留ノ欄ニハ本縣内ノ他郡ニ出テ住スル者ヲ記入ス可シ

一家族ニ係ル附籍者ハ寄留者トシテ算ス可シ

一陸海軍在營艦ノ現役兵及監獄コアル囚人ハ其本籍府縣ノ管内管外ニ在ルヲ問ハス各其欄ニ記入ス可シ但歸休兵ハ算入ス可カラズ

一失踪ノ欄ニハ本年十二月三十一日調ノ戸籍ニ現ニ失踪ノ登記アル者ノ員數ヲ記入ス可シ

一管外ヨリ入寄留ノ欄ニハ他府縣ヨリ來テ住スル者又管内ヨリ入寄留ノ欄ニハ本縣内ノ他郡ヨリ來テ住スル者ヲ記入ス可シ

一再掲市街ハ前表ニ掲ケタル市街ニ同シ但此市街出入ノ調査ハ他府縣及他郡ノ出入寄留ヲ記載スルニハ勿論同郡内ト雖モ其市街ノ域外ニ出テ住

スル者ハ管内出寄留トナリ市街ノ域外ヨリ來テ住スル者ハ管内入寄留トナシテ調査記入ス可シ

本籍人族別表 (明治何年十二月三十一日現在)

| 郡名 | 戸主 | | 家 | | 族 | | 棄 | | 兒 | | 合 | |
|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 華族 | | | | | | | | | | | | |
| 士族 | | | | | | | | | | | | |
| 平民 | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | |

一棄兒ハ立戸セサル者及人ノ養子女トナラサル者ノミヲ掲ク可シ

何郡生年別本籍人口表 (明治何年十二月三十一日現在)

| 生年 | 男 | | 女 | | 合計 | |
|--------|---|---|---|---|----|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 明治廿一年生 | | | | | | |

| 属 | 附 | | | | | 結婚數 | 離婚數 | 年未配偶數 | 生 | | | | 死 |
|---|---------|----|---|---|----|-----|-----|-------|----|--|--|--|---|
| | 類 | 別 | 産 | | | | | | 合計 | | | | |
| | | | 公 | 私 | 合計 | | | | | | | | |
| | 明治二十年生 | 男 | | | | | | | | | | | |
| | 同十九年生 | 男 | | | | | | | | | | | |
| | 同十八年生 | 男 | | | | | | | | | | | |
| | 同十七年生 | 男 | | | | | | | | | | | |
| | 同十六年生 | 男 | | | | | | | | | | | |
| | 同十六年以前生 | 男 | | | | | | | | | | | |
| | | 女 | | | | | | | | | | | |
| | | 合計 | | | | | | | | | | | |

| 類 | 別 | 男 | 女 | 合計 |
|--|--------|---|---|----|
| <p>何那本籍出產死亡婚姻表</p> <p>(明治何年中)</p> <p>一本表ハ郡内本籍人ノ生年ヲ調査スルモノニシテ其調査ノ年ヲ首トシ以 上年次ヲ逐ヒ明治、慶應、元治、文久、万延、安政、嘉永、弘化、天保、文政、 文化、享和、寛政、天明、安永、ニ遡リ年號何年生ト列記シ其生レタル年 ニ從ヒ記入ス可シ例之明治二十一年生ノ下欄ニハ同年一月一日ヨリ十 二月三十一日マテニ生出シタル者ヲ記入スルカ如シ但戸籍編製以前失 踪シ其生年詳カナラサル者アルキハ生年不詳ノ欄ニ記入ス可シ</p> | | | | |
| | 明治二十年生 | | | |
| | 生年不詳 | | | |
| | 合計 | | | |

| 死産 | 本籍不詳者死亡 | 死亡届洩者 | 棄兒 | |
|----|---------|-------|-----|-----|
| | | | 前年生 | 本年生 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

一本表ハ一ケ年ノ總數ヲ記入スル趣意ナリ

一生産者ノ數ヲ舉グルコハ例之明治廿一年ニ在テハ先ツ該年ノ登記目錄ニ就キ一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ出産シタル數ヲ算出シ之ヲ第一數トシ次ニ明治二十二年ノ登記目錄ニ就キ廿一年十二月下旬ニ出産シテ其届出期限二十二年一月上旬ニ係リテ届出テタル數ヲ算出シ之ヲ第二數トシ(此第二數ハ明治二十二年ノ出産表ニハ記入ス可カラス)此第一第二ノ數ヲ合シテ記入ス可シ

一公生トハ夫妻ノ間ニ舉ケタル者ヲ稱シ其他ハ私生トス故ニ庶子モ亦私

生トス

一出産ハ出生兒ノ數ヲ記入スルモノナレトモ双胎以上ノ者ナラハ欄外ニ説明ス可シ

一死亡者ノ數ヲ舉グルハ生産者ノ數ヲ舉グル方法ニ同シ

一出産届以前ニ死亡シタル者ノ數ハ前項ノ方法ニ據リ生産死亡ノ兩項ニ各記入スルハ勿論トス

一死亡トハ本籍人ノ死亡ヲ稱スルモノニシテ其地ニ於テ埋火葬認許証ヲ與ヘタルト否ト關セズ又死産ハ算入セサルモノトス

一結婚離婚ノ數ハ本年中結婚離婚ヲ届出タル件數即チ組數ヲ記シ且結婚ハ婦又ハ婿ヲ迎ヘタル方離婚ハ之ヲ出シタル方ニ於テ記入ス可シ

一年未配偶ノ欄ニハ本年十二月三十一日調ノ戸籍ニ登記シアル夫婦ノ組數ヲ記入スヘシ

一附属生産届者ハ例之明治二十一年ノ調査ニ在テハ該年ノ登記目錄ニ就

キ二十年以前ニ出產シテ廿一年中ニ届出テタル者ノ數ヲ二十年生ヨリ十六年以前生マテノ五項ニ別テ記ス可シ爾後此例ニ依リ毎年繰上クルモノトス

一明治十六年以前生ノ欄ニハ明治五年戸籍編製ヨリ十六年マテニ出產シテ届洩レタル者ヲ記入ス可シ

一同表棄兒ハ本年中ニ届出タル者ニ就キ本年中ノ出生ト推測シタル者ハ本年生ノ欄ニ前年生ト推測シタル者ハ明治二十年以前生ノ欄ニ區別シテ記入ス可シ

一同表死亡届洩者ハ生産届洩者ヲ擧クル如ク五項ニ區別スルニ及ハス總テ一項ニ合記ス可シ

一同表本籍不詳者死亡ハ本年中行旅死亡人取扱規則ニ依リ取扱ヒタル數ヲ記入ス可シ但調査ノ際揭示中ニ係ル者ハ之ヲ除キ本籍不詳ト決シタル年ノ數ニ記入ス可シ

一同表死産ハ妊娠後四ヶ月以上ニシテ死胎分娩シタル者ヲ云フ其數ハ素ヨリ登記目錄ニ記載セサルモノナルヲ以テ人民各自ノ届書ニ據リ死産ノ月日ニ拘ハラヌ本年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ届出テタル數ヲ記入ス可シ但死亡數ヘハ算入ス可カラヌ

市街現住人出產死亡表

(明治何年中)

| 市街名 | 生 | | 産 | | 死 | |
|-----|---|---|---|---|-----|-------|
| | 公 | 私 | 合 | 計 | 有籍者 | 本籍不詳者 |
| 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 合 |
| 合計 | | | | | | |

一本表市街ハ人口凡二万五千以上ノ地ヲ云フ

一本表ハ本籍人ノ其市街ヲ出テ住シテ出生死亡シタル者ヲ除キ他ヨリ其市街ニ來リ住シテ出生死亡シタル者ヲ加ヘテ調査ス可シ

一生産死産ノ死亡記入方ハ前表ノ説明ニ同シ但本年ニ係ル數ノミヲ記入

シ前年以前ノ届洩ニ係ル者ハ記入ニ及ハス
 一棄兒ハ本年生産セシト認ムル者ノ數ヲ掲ケ前年以前ニ出産セシト認ムル者ノ數ハ記入ス可カラズ

何郡就除籍送入籍及失踪表(本籍)

(明治何年中)

| 類 別 | 男 女 | | 合 計 |
|----------|-----|---|-----|
| | 男 | 女 | |
| 無籍者就籍 | | | |
| 外國ヨリ入籍者 | | | |
| 重籍者除籍 | | | |
| 外國へ送籍者 | | | |
| 他府縣へ送籍者 | | | |
| 他府縣ヨリ入籍者 | | | |
| 失 踪 | | | |

他郡へ送籍者
 他郡ヨリ入籍者

- 一 無籍者就籍ノ項ニハ明治五年戸籍編製ノ時ヨリ無籍ニシテ本年ニ至リ始メテ籍ニ就キタル者ヲ記入ス可シ
- 一 外國ヨリ入籍者ノ欄ニハ婚姻ニ依リ外國人ノ入籍シタル者ヲ記入シ可シ
- 一 失踪者除籍ノ欄ニハ本年中滿八十歳ニ至リ除籍シタル者及八十歳以上ニシテ失踪シ本年中滿三十六ヶ月ニ至リ除籍シタル者ヲ記入ス可シ
- 一 重籍者除籍ノ欄ニハ一ハニシテ兩所ニ本籍ヲ有スルニヨリ一方ヲ削除シタル者ヲ記入ス可シ
- 一 外國へ送籍者ノ欄ニハ婚姻ニ依リ外國へ送籍シタル者ヲ記入ス可シ
- 一 失踪ノ欄ニハ本年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ失踪逃亡ヲ届出タル者ヲ記入ス可シ但復歸又ハ所在分明ノ届出アル者ハ此限ニアラズ

一送籍入籍報知書ノ受授ヲ完結セサル者ヲ記入ス可カラス

○訓令甲第八十號 明治二十二年四月三十日 郡役所 町村役場

本年(三月)縣令甲第廿一號ヲ以テ町村ノ區域名稱改定候ニ付戶籍簿ニ異動ヲ生シタルモノハ左ノ例ニ據リ朱書訂正ニ止メ戶主代替リ及轉住ノ際更正スヘシ

例

一福島町字通り一ノ三番地

一福島町會根田字具吹田一番地

一若松町大町字大町一番地

一若松町榮町米代三ノ丁一番地

○訓令庶秘第四號 明治廿二年五月八日 郡長

無籍定漏籍編入及戶籍上誤謬加除訂正ニ關スル委任ノ件今般縣令甲第六十號ヲ以テ削除候處右ハ一字一句ノ増損改定ト雖モ公私權利ノ得喪ニ大ナル

關係ヲ惹起候モノ有之最モ事實ノ審査ヲ慎ムヘキモノニ付キ右ニ關スル願書進達ノ際ハ舉証十分ナルモノヲ除クノ外事實篤ト取調ノ上意見ヲ附シ差出スヘシ

○訓令甲第九十九號 明治二十二年五月廿八日

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期又ハ徵集猶豫中ノモノ名簿ニ關スル異動ヲ生シタルハ町村長ヨリ郡長ニ報告スヘシ

但本文ノ異動中他ノ徵募區ニ轉籍スルモノハ原住地郡長ヨリ轉籍地ノ郡長ニ通知スヘシ

○訓令甲第八十五號 明治廿二年七月十八日

明治廿二年(二月)縣令甲第十號ニ左ノ一項ヲ增加ス

八 亡兄弟遺妻結婚ニ關スル願書(縣令甲第十號ハ願書正
訓差出スヘキモノナリ)

○訓令甲第三百三十一號 明治廿二年七月廿三日 町村役場

明治十九年内務省令第十九號第一條乃至第四條ノ違犯者ハ警察署又ハ分署等ノ通知書ヲ受ケタル上戸籍ニ登記スル義ト心得ヘシ

○訓令甲第百三十三號 明治廿二年七月廿七日 町村役場

東京市京都市大坂市ニ關スル人民送入籍狀ハ從前ノ通區役所宛ヲ以テ發遣候義ト心得ヘシ

○本縣違警罪即決手續拔抄 明治廿二年七月 警察署

第十七條 刑法第四百二十七條第十及十九年内務省令第十九號第一條乃至

第四條ノ違犯者ニ即決言渡ヲナシタルトハ其言渡確定ノ後被告入本籍地ノ市役所又ハ町村役場ニ通知スヘシ

○戊庶第八百五號 明治十三年九月六日 郡役所

十六年十二月丙第
百一號ニテ訂正ア
リ

今般別紙辭令ノ通申付候條達方取計墳墓監守手續書相渡受書徵收ノ上可差
出此旨相達候事

追テ手當金ハ本年一月ヨリ支給候條受取方可爲申出事

墳墓監守手續書

殉國者ノ墳墓ヲ監守シテ百事不取締ナカラシム其目左ニ掲ク

第一條

一 常ニ清潔ニ掃除ヲナシ香水水等ヲ手向ル事

第二條

一 墓標又ハ玉垣雨覆ノ類妨害ヲナスモノアルトハ之ヲ制シ若シ用ヒサルニ
於テハ宿所姓名ヲ聞糺シ速ニ可届出事

第三條

一 風災又ハ腐折等ニテ被害アラハ詳細取調速ニ可届出事

第四條

一總テ墓所ハ第一號雛形ノ如ク開設年月日地種地名域内坪數戰死ノ事故舊藩姓名年齢墓標創立年月日建設人名及該墓地ヨリ縣廳迄ノ距離里數玉垣雨覆等ノ實景ヲ記載シ此手續書ニ綴置クヘシ

第五條

一諸費用一ケ年手當トシテ金貳圓五拾錢ヲ給シ六月十二月ニ可相渡事但第三條被害ノ如キハ此費用外トナスト雖且監守人ノ不取締ヨリ生スルモノハ本條ノ費用ヲ以テ差引クヘシ

第六條

一前條費用ハ第二號雛形ノ証書ヲ以テ郡役所へ受取方可申出事

第七條

一監守人代替又ハ移轉等ノ事アラハ速ニ可届出事

第八條

一ケ年一兩度官員又ハ郡吏員臨時出張實地ヲ検査シ若シ不取締ノ廉アラハ一切手當ヲ不給且ツ監守ヲ免シ更ニ他ノ者へ監守ヲ命スル等ノ事アルヘシ

第九條

一縣廳ノ都合ニヨリ監守ヲ免シ又ハ手當ヲ増減シ箇條ヲ更正増補スル事アルヘシ

第十條

一監守人ハ此手續ヲ遵守シ第三號雛形ノ受書ヲ差出シ置クヘシ

第十一條

一監守人ハ第一條ニ依リ墓地區域内常ニ洒掃清潔シ香花水等ヲ供スルハ勿論ナリト雖モ毎土曜日(雨天日送)必ス第一條ノ通り洒掃シ香花水等ヲ供シ其地戸長ノ検査ヲ受クヘシ

第一號雛形(零ス)

第二號雛形

証

一金何程

但何國何郡何町村字何々官軍戰死ノ墳墓何之誰外何人一ヶ年御手當

金何程ノ内何月ヨリ何月迄^上下半年分

右正ニ受取候也

何國何郡何町村

墳墓監守人

年 月 日

何 之 誰 印

某郡長宛

第三號雛形(墓標略ス)

右ハ官軍戰死墳墓今般監守被命手續書御下付相成屹度確守可仕候仍テ御
受書差上申候也

何國何郡何町村

墳墓監守人

年 月 日

何 之 誰 印

福島縣御中

辭令書式

何 之 誰

何郡何町村字何々ニアル殉國者墳墓監守申付候事

年 月 日

福 島 縣 (印)

○丙第百一號 明治十六年十二月四日

郡役所

明治十三年(九月)戊庶第八百五號達殉國者官軍墳墓監守手續書中左之通り

更正候條各監守人へ達方可取計此旨相達候事

但シ監守人手當料ノ儀ハ每期其郡役所へ可及送付候條受領証ノ儀ハ其郡
役所ヨリ當廳會計主務官宛ヲ以テ差出候儀ト心得ヘシ

○訓令甲第二百五十三號 明治二十年七月十五日 郡役所 戶長役場
官軍墳墓ノ儀ハ監守人ニ於テ洒掃及其墓標ニ對シ香花水等ヲ供スルハ勿論
ニ候處戶長ニ於テハ每三月(三月六月九月十二月)十五日該墳墓ヲ檢査シ其
形况郡役所ヲ經テ具申スヘシ

○訓令甲第二百五十四號 明治二十年七月十五日 郡役所

官軍墳墓ノ義ハ監守人ニ於テ常ニ清潔ニ掃除ヲナシ香花水等ヲ供スヘキハ
勿論ノ處近來等閑ニ付スル向モ有之哉ニ相聞候條右様ノ義無之様監守人共
ヘ諭示致シ置クヘシ

○丙第四十號 明治十五年十月十八日 郡役所

學校病院道路橋梁其他公共ニ屬スル費用中寄附金出願聞届候場合ニ於テハ
其旨別段相達候儀モ有之候處向後右聞届候節ハ金員收領ノ上更ニ可届出此
旨相達候事

○乙第六十八號 明治十八年六月廿四日

地所質入書入建物船舶書入質ノ公証ヲ受ケタルモノハ出訴期限無之候條此
旨相達候事

○戊第二十二號 明治十八年四月八日

民事裁判上身代限財產調ノ節郵便切手ヲ所持スルモノアリ該切手ヲ公賣財
産ノ中ニ加フヘキ爲メ郵便條例第卅六條第卅七條ニ依リ買戻シテ乞ハント
スルモ第卅七條ニ在テハ四枚以上聯合續シタルモノニアラサレハ其買戻ノ
請求ヲナスヲ得サルノ成規ニ有之候所右處分ニ際シ此有價ノ郵便切手ヲ公
賣シ其財產ニ加フルヲ得セシメサルハ公賣處分上不穩當ノ儀ニ付其數ノ多
寡ヲ問ハス聯合續セサルモノト雖モ身代限財產處分スルキニ限り本局若シ
クハ驛遞出張局兼攝郵便局ニ於テ郵便條例第三十七條ニ準據シ特別ヲ以テ
買戻ノ儀今般太政官ノ裁可ヲ得候旨其筋ヨリ通知有之候條爲心得此旨相達
候事

○戊第四十五號 明治十八年六月十九日

郡吏及戸長職務上ニ係リ刑事裁判ノ証人トシテ裁判所ニ出頭スル時ハ治罪法ニ依リ旅費日當ヲ請求スルコトヲ得ルト雖モ被告事件無罪又ハ免訴トナリタル時ハ請求セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但旅費日當ヲ請求シタル時ハ其金額ハ經濟ヲ區別シ雜收入トシテ納付ス可シ

○丁第五十八號

明治十八年十二月廿一日

戸長役場

今般民事裁判執行願取扱手續別紙ノ通り相定メ候條警察官吏ヨリ立會ヲ求ムルキハ速ニ之ニ應スヘシ此旨相達候事

但本年丁第五十三號達ハ取消候事

(別紙)

民事裁判執行願取扱手續

第一條 直者裁判所ノ命令書ヲ以テ裁判ノ執行ヲ願出ルキハ以下ノ各條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 執行願出ツル者アルキハ命令書ノ正本及ヒ謄本ノ一通ヲ徴シ正本ハ檢閱ノ上返付スヘシ

第三條 前條ノ場合ニ於テハ警察署長及分署長其書類ヲ檢閱シ公力ヲ與フ可キモノト認ムルキハ出張日時ヲ定メ之ヲ直者ニ通知スヘシ

第四條 執行ハ願出ノ日ヨリ二日以内ニ必ス其處分ニ着手スヘシ

第五條 執行ノ爲メ巡查ヲ出張セシムルキハ命令書謄本ヲ交附シ且執行ノ方法ヲ指示スヘシ

第六條 執行ニ臨ミタル場合ニ於テハ曲者ノ所在明カナラサルキハ其相續人或ハ財産管理者若シ右等ノモノナキキハ親屬ヲシテ立會セシムヘシ

但親屬無之歟親屬アリト雖モ立會ヲ肯セサルキハ戸長ノ立會ノミニテ處分スヘシ

第七條 執行願出ルモ公力ヲ與フ可カラサル事柄ト認ムルキハ其理由ヲ示シ命令書ヲ差戻スヘシ若シ其指示ニ承服セサルキハ公力ヲ與ヘ難キ旨ヲ

管可仕御達ノ趣奉畏候此段御受申上候以上

住所身分職業

年 月 日

原告人 氏 名 印

前書原告人氏名御受申上候御差押ノ財産ハ私ニ於テモ屹度注意致シ若シ轉移隱匿等ノ儀見聞候ハ、直チニ當御役場へ具狀スヘキ旨御達ノ趣敬承仕候以上

住所身分職業

年 月 日

原告人 氏 名 印

福島縣何郡何町村戸長氏名宛

(甲號書式)

身代限財産調書

金穀之部

一金何百何圓何錢

一穀類何拾何石何斗

米麥等其實ニ就テ記スヘシ

以下倣之

地所之部

何國何郡何町村字何番地

一宅地何町何反何畝步

此地價金何圓何錢

「他へ書質入ノ分ハ」

何年月日何國何郡何町村何番地氏名へ
何番書 質 入戸長某公証

以下倣之

建物之部

何國何郡何町村何番地

一居宅何坪

一棟 但(前斷)

一土藏何坪
幾棟

合建物何百何坪
諸雜品之部

一板戸
何本

一障子
同

一疊
何疊

一衣類(何地綿入又ハ單衣等一々其實ニ就テ記スヘシ)
何枚

一夜具
同

以下倣之(都テ所有ノ財産ハ細大トナク一々記載スヘシ)

合雜品
職業必需日用品之部
壹顆

一實印
壹顆

但原告人氏名封印ノ上某戸長役場ニ預リ置ク

一着衣類(何地木綿又ハ單衣等其實ニ就キ記スヘシ)
何枚

但家族何人内男何人 女何人ニ付本文ノ如シ
何人前

一膳
同

一椀
何個

一錫
同

一釜
何挺

一鍬
何挺

以下倣之

右之通御取調相成候處聊相違無御座候以上

住所身分職業

年 月 日
原告人 氏 名 印
被告人 氏 名 印

同 同 同
原告人 氏 名 印

(其立會ニ應セサルキハ之ヲ除ク)

同 同 同

(同)

受証人 氏 名 印

立會

何郡何町村戸長 氏 名 印

今般原告人住所氏名ヨリ原告人住所氏名へ係ル訴訟事件ニ付原告人氏名身代限財産取調ノ義何月何日何號ヲ以テ御照會ノ趣了承取調候處前書之通ニ候條此段及御回答候也

年 月 日

福島縣何郡何町村戸長役場

何裁判所(又ハ何裁判何支廳)御中

(乙號書式)

公賣入札金仕譯書

一原告人氏名ヨリ被告人氏名へ係ル某訴訟ニ付原告人氏名身代限處分ノ爲メ各債主并ニ望ノ者會合氏名所有財産入札シタル金額左ノ如シ

何國何郡何町村字番地

一金何圓何錢(何國何郡何町村何之誰へ質入ノ分)又ハ(質入ナシ)

田何反歩

但何國何郡何町村身分氏名高金額

何國何郡何町村字何番地

一金何圓何錢(同)

居宅、土藏、瓦、板、登寄、建家何坪

但何國何郡何町村身分氏名高金額

(都テ高金額地所建家及ヒ高金額ハ各列ナル特別項ニ記載スル以下準之)

一同、、、 何品何個

但書前ニ同シ

一同、、、 所持金

總計金何圓何錢 入札金惣高

一入札

但安札ニ付取纏メ調出ス

右之通相違無御座候以上

住所身分職業

年 月 日

被告人 氏 名 印

同 同 同 原告人 氏 名 印

同 同 同 同 氏 名 印

立會 何郡何町村戸長 氏 名 印

何月何日付何號ヲ以テ身代限財産公賣入札ノ儀御照會ノ趣了承即チ前書ノ通ニ候條總入札取纏及御回答候也

年 月 日

福島縣何郡何町村戸長役場

何裁判所(又ハ何裁判所何支廳)御中

(丙號書式)

何月何日付何號ヲ以テ身代限リ財産公賣金員送付ノ儀御照會ノ趣了承即チ
(未納金アリテ之ヲ引去リ殘金アルトキハ未納金後記ノ金額引去ルト記載スヘシ)何銀行爲替券ヲ以テ及御送付候條御落手ノ上ハ領收証御差回相成度此段及御回答候也

年 月 日

福島縣何郡何町村戸長役場

何裁判所(又ハ何裁判所何支廳)御中

何町村字何番

幾反別ニ對シ何々未納金何圓ヲ去リ以下一々明記スルヲ准之
合計金何圓

○訓甲第百六十二號

明治十九年十二月五日

郡役所

孝子節婦義僕其他總テ奇特者賞與ノ節ハ自今賞狀ニ目錄相添送附シ別段不

相達候條其都度授與取計受書ヲ徴シ差出候義ト心得ヘシ

但木盃下賜ノ分ハ別ニ目錄ヲ付シ通運便ヲ以テ送付スヘシ

○訓令甲第二百二十號 明治二十年六月廿一日 郡役所 戸長役場

人民遠隔ノ地ヨリ郵便又ハ代人等ヲ以テ海外旅券下付願書差出候者ノ内戸主ニ非ラスシテ本人一己ノ願書へ區戸長ノ與印ヲ受ケ差出候向モ有之候處右ハ其戸主ニ於テ諾否ノ有無モ判然セス夫レカ爲メ本人在籍地方へ往復ヲ重シ徒ニ手數ノ時日ヲ費シ候ニ付以來旅券下付願書ニ與印願出候節ハ渡航ノ目的出費ノ途等篤ト取調ノ上不都合ノ廉無之者ト雖モ本人戸主ニ非ラサルルキハ其戸主ト雖モ未丁年者ナルルキハ其後見人或ハ親族ノ内必ラス連署調印ノ上願出候様取計フヘシ

○訓令甲第二百二十七號 明治二十年六月廿五日 郡役所 戸長役場

公益ノ爲メ金穀物件等ヲ寄附スルモノハ總テ戸長役場へ上納セシメ候條戸長役場ニ於テハ右指令ニ基キ之ヲ收入シ其管理ニ屬スルモノ、分ハ所轄郡

役所ニ相納メ郡役所ニ於テハ前同様ノ區分ニ依リ夫々納付方取計候儀ト心得ヘシ

社寺之部目次

| | | |
|---------|-------------------------------|----|
| 甲第九十二號 | 社寺明細帳雛形…………… | 一 |
| 甲第九十三號 | 明細帳へ相添可差出モノ…………… | 一二 |
| 乙第十七號 | 社寺佛堂境内伐木取扱心得…………… | 一二 |
| 甲第八十三號 | 社寺ニ於テ金穀借入手續…………… | 一五 |
| 乙第三十九號 | 内務省乙第二十二號社寺寶物古文書等取調ニ關スル件…………… | 一五 |
| 乙第九十二號 | 社寺佛堂異動届ノ件…………… | 一六 |
| 番 | 梓巫子并憑祈禱取締…………… | 一六 |
| 乙第三十八號 | 外 合寺願手續…………… | 一八 |
| 乙第七十號 | 僧侶托鉢解禁ノ件…………… | 一八 |
| 乙第五十八號 | 各管内社寺惣代人心得方ノ件…………… | 二〇 |
| 乙第六十一號 | 社寺創立再興出願ノ心得…………… | 二一 |
| 乙第七十八號 | 教院所ニ於テ葬祭ナラサル件…………… | 二二 |
| 乙第十一號 | 自今神官ハ葬儀ニ關係不致件…………… | 二二 |
| 乙第十七號 | 日蓮宗不受不施講公稱ノ件…………… | 二三 |
| 甲第一百十二號 | 各町村鎮座氏神區域ノ件…………… | 二三 |

| | | |
|----------|-----------------------|----|
| 乙第五十一號 | 神道派名公稱ノ件 | 二三 |
| 丁第三號 | 真言宗中法相宗獨立ノ件 | 二四 |
| 丁第六號 | 禁厭祈禱ハ醫師ニ關係アル件 | 二四 |
| 乙第八十七號 | 神社寺院創立再興ノ年期 | 二五 |
| 乙第九十四號 | 縣社以下附屬ノ講社結集ノ際出願方 | 二五 |
| 丁第二十九號 | 教導職撰擧ノ節心得 | 二五 |
| 丁第二十七號 | 教會講社結集ノ節届出ノ件 | 二六 |
| 丁第八十五號 | 寺院ノ住職各管長ニ委任ニ付明細帳ノ件 | 二七 |
| 戊第十七號 | 轉宗改式届出ニ不及件 | 二七 |
| 戊第十八號 | 社寺ノ財産ニ關スル願ハ管長ノ添書ヲ要スル件 | 二七 |
| 戊第三號 | 右願ニ附帶スル眞宗本願寺派ノ伺指令ノ件 | 二七 |
| 丙第六十一號 | 社寺境内一時貸下ノ節取扱方 | 二八 |
| 訓令甲第三百五號 | 神社佛堂共權現號等ヲ私稱スルヲ許サル件 | 三〇 |
| 縣令甲第十七號 | 神官試験ノ件 | 三〇 |
| 訓令甲第五十三號 | 祠掌欠員アルトキ氏子信者ニテ撰擧届出ノ件 | 三一 |
| 庶第六十四號 | 神社寺院ニ物品寄附届出ノ件 | 三一 |
| 縣令甲第五十一號 | 社寺ニ於テ公賣處分ヲ受ケ再建届出ノ件 | 三一 |

○縣甲第九十二號 明治十年十一月五日

今般詮議、次第有之内務省經伺ノ上別紙雛形ノ通社寺明細帳改正候條可得
 其意依テ、掛官出張申付實地調査尙分精確ヲ要シ候ニ付テハ本年縣甲第三
 十七號布達ニ依リ合併移轉ノ分ヲ除クノ外現今存在ノ社寺堂宇共大小無洩
 雛形ニ照準豫メ下調致シ置キ可申此段社寺ニ布達候事

社寺明細帳編製例言

- 一 明細帳ノ外境内地并地内建物分間繪圖ヲ製シ美濃全紙ニ縮寫シ本帳部分ニ準シ纏綴本帳ニ副ユル者トス
- 一 明細帳各社記載ノ順序ハ國郡分ケ村寄セトス但縣鄉村社ノ順序ヲ立テ村社ハ必ス附屬社ノ次ヘ記ス
- 一 明細帳各寺記載ノ順序ハ國郡分ケ宗分ケ派分ケ本寺寄セトス
- 一 小祠神勤ハ縣鄉村社神官中ヨリ受持タシメ其姓名ヲ記ス境外攝社末社ハ本社神官受持ト定メ別ニ記名セス
- 一 住職一身ニ係ル得度修學教職住職ノ年月等明細帳ニ記載セサルハ住職出

| | | |
|----------|-----------------------|----|
| 乙第五十一號 | 神道派名公稱ノ件 | 二三 |
| 丁第三號 | 真言宗中法相宗獨立ノ件 | 二四 |
| 丁第六號 | 禁厭祈禱ハ醫師ニ關係アル件 | 二四 |
| 乙第八十七號 | 神社寺院創立再興ノ年期 | 二五 |
| 乙第九十四號 | 縣社以下附屬ノ講社結集ノ際出願方 | 二五 |
| 丁第二十九號 | 教導職撰擧ノ節心得 | 二五 |
| 丁第二十七號 | 教會講社結集ノ節届出ノ件 | 二六 |
| 丁第八十五號 | 寺院ノ任職各管長ニ委任ニ付明細帳ノ件 | 二七 |
| 戊第十七號 | 轉宗改式届出ニ不及件 | 二七 |
| 戊第十八號 | 社寺ノ財産ニ關スル願ハ管長ノ添書ヲ要スル件 | 二七 |
| 戊第三號 | 右願ニ附帶スル眞宗本願寺派ノ伺指令ノ件 | 二七 |
| 丙第六十一號 | 社寺境内一時貸下ノ節取扱方 | 二八 |
| 訓令甲第三百五號 | 神社佛堂共權現號等ヲ私稱スルヲ許サル件 | 三〇 |
| 訓令甲第十七號 | 神官試験ノ件 | 三〇 |
| 訓令甲第五十二號 | 祠掌欠員アルトキ氏子信者ニテ撰擧届出ノ件 | 三一 |
| 庶第六十四號 | 神社寺院ハ物品寄附届出ノ件 | 三一 |
| 縣令甲第五十一號 | 社寺ニ於テ公賣處分ヲ受ケ再建届出ノ件 | 三一 |

○縣甲第九十二號 明治十年十一月五日

今般詮議、次第有之内務省經伺ノ上別紙雛形ノ通社寺明細帳改正候條可得
 其意依テハ掛官出張申付實地調査何分精確ヲ要シ候ニ付テハ本年縣甲第三
 十七號布達ニ依リ合併移轉ノ分ヲ除クノ外現今存在ノ社寺堂宇共大小無洩
 雛形ニ照準豫メ下調致シ置キ可申此段社寺ハ布達候事

社寺明細帳編製例言

- 一 明細帳ノ外境内地并地内建物分間繪圖ヲ製シ美濃全紙ニ縮寫シ本帳部分
 ニ準シ纏綴本帳ニ副ユル者トス
- 一 明細帳各社記載ノ順序ハ國郡分ケ村寄セトス但縣鄉村社ノ順序ヲ立テ村社
 ハ必ス附屬鄉村ノ次ヘ記ス
- 一 明細帳各寺記載ノ順序ハ國郡分ケ宗分ケ派分ケ本寺寄セトス
- 一 小祠神勤ハ縣鄉村社神官中ヨリ受持タシメ其姓名ヲ記ス境外攝社末社ハ
 本社神官受持ト定メ別ニ記名セス
- 一 住職一身ニ係ル得度修學教職住職ノ年月等明細帳ニ記載セサルハ住職出

頭ノ節明細ノ履歷書ヲ爲差出部分編綴シ置クモノトスル故ナリ

一社寺共毎冊小總計ヲ記載シ未冊へ大總計ヲ記載スル者トス

一佛堂ハ寺院住職ヨリ受持タシメ其姓名ヲ記ス

縣社或ハ鄉村社

何國郡何町村字何鎮座

(印ハ朱書)

何神社

式内外(或ハ國史現在又ハ一郡崇敬一村信仰)

一祭神

何々尊

一由緒

何々、、、、、(舊朱印地除地舊藩主寄附地社殿舊領主遺跡等モ此所へ記ス)

一勸請

何年月日何々、、、、、、、、、、、

一社殿

神殿縱何間 幣殿縱何間 拜殿縱何間
横何間 横何間 横何間

寶藏縱何間 横何間 (此他建物悉皆コ、へ記ス)

一同造營

村持或ハ氏子持ノ區別

一社號改替

舊神號何々何年何月日何々改稱(熊野大権現ヲ熊野神社トスル如キハ記セス變ヘハ熊野神社ヲ二本)

松神社ト改稱スルノ類ナリ

一神位

何位何年月日何所ヨリ宣下

一祭日

何月日(年中一度ノ大祭日ヲ記ス)

一什寶物

何何程
何何箇

一寄附物

何何箇

一境内地

何百何十坪 地種區別

一持添地

田何町何反步 此地價何程 周年純利何程
名受何誰 地番 何村何字何番

一寄附地

山何反何畝步 此地價、、 周年純利、、
名受、、 地番、、

一境内樹木

松目通尺回以上何本 杉目通尺回未滿何本 何、、、

一永續方法

何々

一縣廳距離

何里何丁

一氏子

何十戶 (小社ナレハ信者)

一神官

教導職何某何國郡町 何族職(郷社ナレハ祠官祠掌共列記スへ)

境内攝社

何神社

- 一 祭神 何
- 一 由緒勸請 不詳
- 一 社殿 縱何間 横何間
- 一 祭日 何月日
- 一 境内地 何十步 (地種ノ區別ヲモ記ス)
- 一 永續方法 何
- 一 縣廳距離
- 一 信者

右之通相違無御座候以上

何國郡村社何神社祠官掌

(兼同國郡村々) 村社ノ外ハ此行ヲ除ク

年號干支月日

何 誰 印

氏子惣代

(小社ナレハ信者惣代トス一戸 信仰ナレハ惣代ノ二字ヲ除ク)

何 誰 印

什長

何 誰 印

用係

何 誰 印

戸長

何 誰 印

縣令宛

何宗何派 何國郡町村何番地

何山 何寺

一本山 何山 何寺 何府縣國郡町村

一開山創立

年號干支月日誰開山年號干支月日創建何々、何々、何々、(由緒緣記等詳細此へ記ス住職代數ヲモ茲ニ記ス)

持添地寄附地其他
 價名受等字數何程
 アルモ此字ニ下ヨ
 リ可成細字ニシテ
 ス一ノ中ニ記入
 必ス行中ニ記入

- 一堂宇 本寺 從何間 庫裏 縱何間 經藏 縱何間 (此他建物アレハ 悉皆此所へ記ス)
- 一本尊佛 何 脇佛、、、
- 一什寶物 何 何個 何 何十
- 一寄附物 何 何個 何 何十
- 一境內地 何百何十坪 (地種ノ區別ヲモ記ス但民 有地ハ名受人名ヲモ記ス)
- 一持添地 田何反步此 地價 何程 周年純利 何程 地番 何町村何字何番 山何町步此、
- 一寄附地 田何反步此、、、畑、、、山、、、林、、、
- 一寄附金 何十何圓 寄附人 國郡村姓名
- 一境内樹竹 何木且通尺回 何本 何木、、、竹 何本、、、
- 一永續方法 何々、、、
- 一縣廳距離 何十何里
- 一檀家 何戸
- 一住職 教導職何某 (何國郡町村族職何 誰何男(或ハ弟))

右之通相違無御座候也

(兼務ナレハ兼務ノ岩代國、何宗、(他縣ノモノハ縣名ヲモ記ス兼務ノ 者ハ何地何寺住職何某兼務ト記ス)

- 年號干支月日 何 々 印
- 何國郡村何宗住職 何 々 印
- 檀中惣代 何 々 印
- 什長 何 々 印
- 用係 何 々 印
- 戸長 何 々 印

縣令宛

用係

何 誰印

戸長

何 誰印

縣令宛

○縣甲第九十三號

明治十年十一月十四日

本年縣甲第九十二號ヲ以テ社寺明細調ノ儀布達ニ及置候處境内地并地内建物ノ儀ハ分間圖地形ノ大小ニ依リ一間三分若クハ二分ヲ美濃全紙又半片ヘ編寫スヲ製シ且ツ間數ヲ記入シ本調書ニ相添可差出此旨社寺ヘ布達候事

○縣乙第十七號

明治十二年三月二十日

郡役所

社寺佛堂境内伐木願並枯木倒木又ハ損木等有之節取扱方左ノ通相定メ候條自今右ニ照準可取扱此旨相達候事

取扱心得

十二年十月縣乙第七十一號ニテ改正アリ

第一條 社寺佛堂境内樹木不得止事故アリ伐採セントスルモノハ其事由及ヒ地種(民有地ナレハ其名受共)本品本數周圍等詳細記載シ神社ハ神官氏

子寺院佛堂ハ住職檀家信者等連署縣廳ヘ出願可爲致事

第二條 同境内ニ枯木倒木又ハ損木等有之候ハ、前條ノ手續ニ循ヒ速ニ郡

役所ヘ可爲届出事

第三條 前條届出ルキハ郡役所ニ於テ實地檢査ヲ遂ケ到底生存ノ見込無之

分人民名受ノ私有地ニアリテハ地主ノ處分ニ任スヘク社寺佛堂ノ所有地

ニアリテハ直チニ其社寺佛堂ニ附シ官有地ニアリテハ現品ヲ要スルモノ

ハ現品ニテ其他ハ公賣ノ上其代價ヲ以テ孰レモ該社寺ニ附スヘシ而シテ

社寺佛堂ニ附與スルモノハ神社ハ神官氏子信者等寺院佛堂ハ住職檀家信

者等連署ノ請書可徴之尤モ郡役所ニ於テハ右處分濟ノ上本品本數周圍及

地種等詳悉取調其都度縣廳ヘ具狀可致事

但實地檢査ノ上生存ノ見込有之者ハ其儘保存セシメ其旨可届出事

○縣乙第九十二號

明治十三年十一月廿二日

郡役所 戶長役場

客歲(十二月)縣乙第八十七號ヲ以テ社寺佛堂異動届ノ儀相達置候次第有之候處自今社寺ヨリ其都度無遺漏當廳へ可爲届出此旨更ニ相達候事

(參考) 客歲(十二月四日付)縣乙第八十七號ハ即チ左ノ如シ

明治十年十一月縣甲第九十二號及九十三號ヲ以テ社寺明細帳改正ノ儀布達爾來追々進達相成依テハ右進達後科目中異動ノ廉加除訂正ヲ加フヘキニ付本年十一月三十日迄ノ分來ル十三年一月十日限り件々詳悉取調可差出尤モ十二年分ハ同年一月十五日限り同様取調可差出此旨相達候事

但十三年一月ヨリハ本月分翌月十五日限り無遲滯差出候様可致此段共

相達候事

○番外

明治十三年十二月九日

明治十年五月縣甲第四十一號ヲ以テ梓巫市子并憑祈禱狐下杯ト唱ヒ玉占口寄等ノ所業ハ大ニ風教ノ妨害アルニ付類似ノ者ト雖モ見聞次第最寄警察署

ニ可訴出旨布達候ニ付テハ右等ノ類不可立入等ニ候得共寒村遠阪ニ至リテハ問々類似ノ者徘徊シ細民ヲ盡惑セシメ疾病ノ節妄リニ加持祈禱ヲ勸メ醫師ニ依頼スルヲ拒ミ或ハ之ヲ拒マセ或ハ醫ノ方位ヲ指シ或ハ藥方ヲ示ス者有之哉ニ相聞ヘ不都合ニ候處人命ノ貴重ナルハ各自心得居ヘキ筈ナレモ中ニハ祈願ニノミ精神ヲ委ネ渠カ妄誕ニ幻惑シ不識不知醫療ノ期ヲ愆リ治ヲ趨カシメ輕症ヲ危篤ニ陷ラシムル等ノ儀有之候テハ實ニ不容易次第ニ付心得違無之様致スヘシ萬一右類似ノ者見受候ハ、速ニ最寄警察署へ可申出此旨更ニ論達候事

(參考) 十年(五月廿五日付)縣甲第四十一號ハ左ノ如シ

梓巫市子并憑祈禱狐下杯ト唱ヒ玉占口寄等ノ所業ハ人民ヲ眩惑セシメ

候儀ニ付明治六年一月中教部省布達ヲ以テ被禁止候處于今其弊不相止同様ノ所業致候モノモ有之哉ニ相聞不都合ニ候條心得違無之様可致若シ其類似ノ所業致候モノ有之候ハ、見聞ノ次第最寄警察署分署交番所ニ可訴

出此旨相達候事

○縣乙第三十八號

明治十四年六月三日

令寺願出ノ節寺號存廢ノ見込其願書へ記載爲致來候處自今相廢候條寺院へ告示スヘシ此旨相達候事

○縣乙第七十號

明治十四年九月十二日

郡役所 戸長役場

僧侶托鉢解禁ノ義ニ付今般内務省甲第八號布達ノ趣有之ニ付テハ佛道各管長へ別紙戊第二號ノ通達相成候旨同省ヨリ達有之候條得其意若シ不都合ノ所業有之節ハ直ニ托鉢差止メ顛末詳細取調當廳へ可申出此旨相達候事

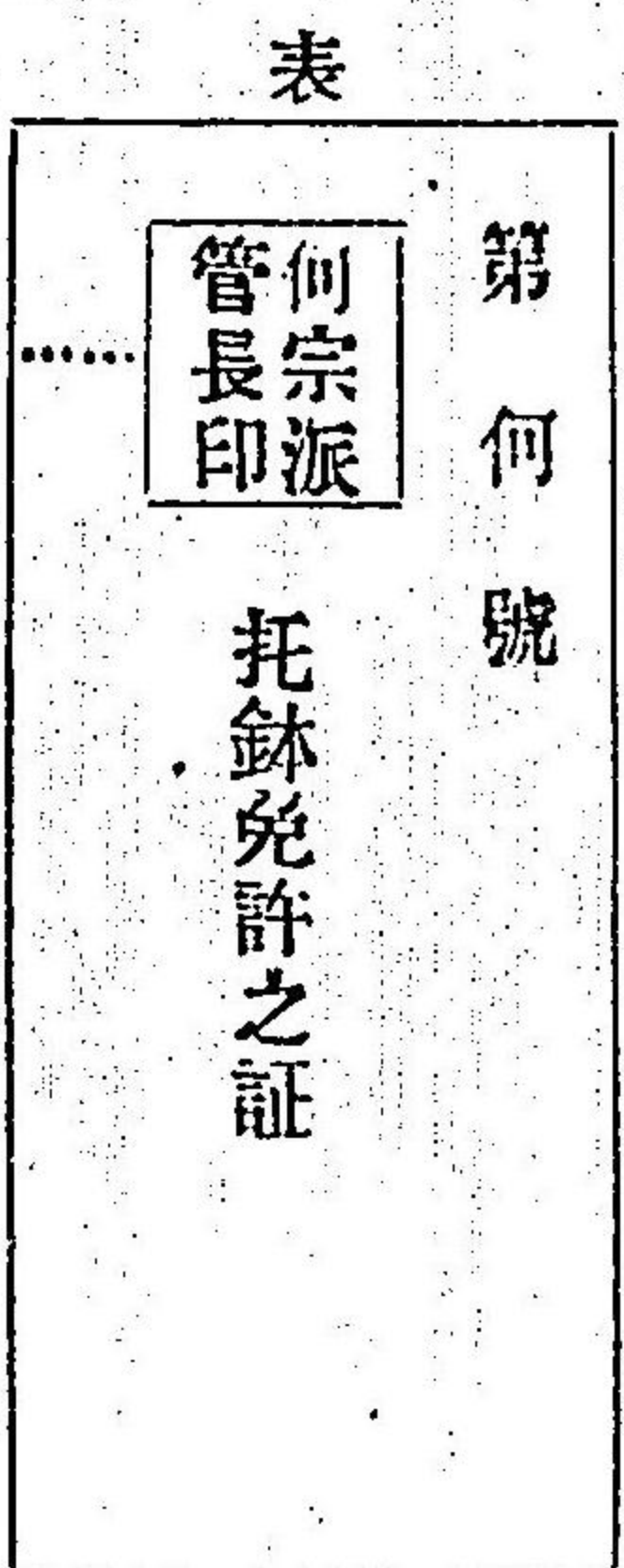
戊第二號

明治十四年八月十五日

佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁ノ義今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候事

托鉢免許方并托鉢者心得



縱六寸

横二寸

燒印

- 一 托鉢ヲ免許セシキハ左ノ雛形ニ照シ免許証ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方應ニ通知シ東京ハ警視廳へモ通知ス可シ
- 一 托鉢ヲ行フハ午前七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス
但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ此限ニ非ス
- 一 托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ攜帶シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ取テ餘物ヲ乞フヲ許サス
- 一 托鉢者ハ一列三人以上十八人以下タル可シ且公衆來往ノ便ヲ妨ク可ラス
- 一 免許証ハ何時タリモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

標牌雛形 木製

裏

| |
|-----------|
| 何府縣何國郡區町村 |
| 何寺 住職 |
| 何寺 徒弟 |
| 教導職名試補 |
| 年 月 日 |
| 何 某 |
| 年 月 日生 |

○縣乙第五十八號 明治十四年八月十七日

各社寺總代人ノ儀ニ付内務省ヨリ別紙之通リ達有之候條得共意來ル九月十五日迄ニ無遺漏取調且總代トナルヘキモノ連署ノ上戸長ヘ届出尙戸長役場郡役所ヲ經山當廳ヘ届出候様社寺ヘ可相達此旨相達候事

乙第三十三號

各管内社寺總代ノ儀氏子檀家中(氏子檀家ナキハ信徒)相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰ミ戸長役場ヘ届出サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以テ可爲差出且社寺收入財産ハ(田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ)其共有ニ属スヘキモノト其

神官住職ニ付スルモノトノ豫約每社寺適宜相定平素混亂セサレ様取調方可爲致此旨相達候事

但神宮官國幣社ハ此限ニアラス

○縣乙第六十一號 明治十四年八月廿七日 郡役所 戸長役場

社寺創立再興復舊等出願ノ向ハ自今左ノ件々詳細爲取調差出候様可致此旨相達候事

一社寺創立再興復舊等ヲ要スル理由及建設後施行ノ目的

但再興復舊ハ當初廢絶合併ノ年月并次第共

一社殿堂宇諸建物坪繪圖面並目論見仕様ノ事

一永續資本ノ財産(動産不動産等ノ細目員數ヲ詳記スヘシ)並發願者(即チ

爾後該社寺一切ノ事ニ關係スヘキモノ總人員)

一境内地坪數及社寺名受若シハ人民共有名受ノ則

一建物社寺ノ體社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏ヲ具備シ堂宇ハ方六尺以上ノモ

ノトス

○縣乙第七十八號

明治十四年十月二十日

郡役所 戸長役場

今般左之通(神道總裁、神佛各管長)へ達相成候旨内務省ヨリ達有之候條爲
心得此旨相達候事

戊第三號

明治十四年十月三日

神道總裁 神佛各管長

敎院敎會所說敎所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ或ハ平素衆庶ニ參拜セシムル等
神社寺院ノ所爲ニ倣フモノ有之候テハ不都合候條心得違無之様可爲致此
旨相達候事

○縣乙第十一號

明治十五年三月十五日

自今神官ハ敎導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサル旨内務省乙第七號ヲ以テ
左記ノ通達相成候條此旨相達候事

乙第七號

明治十五年一月廿四日

自今神官ハ敎導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス此旨相達候事

但府縣社以下神官ハ當分從前ノ通

○縣乙第十七號

明治十五年三月廿七日

日蓮宗不受不施講門派ノ義自今派名公稱布敎差許候旨其筋ヨリ達有之候條
此旨相達候事

○縣甲第一百十二號

明治十五年五月十日

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否
ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得止場合有之申
社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上双方連
署可届出此旨布達候事

○縣乙第五十一號

明治十五年六月十日

郡役所 戸長役場

神道中左ノ各敎會自今頭書ノ通派名相唱特立差許候旨内務省ヨリ達ニ付此
旨相達候事

神道神官派

神宮敎會

同 大社派 田雲大社教會

同 扶桑派 扶桑教會

同 實行派 實行教會

同 大成派 本教大成教會

同 神習派 神習教會

○丁第三號 明治十五年七月十二日

眞言宗所轄法相宗ノ儀自今獨立差許候旨其筋ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事

○丁第六號 明治十五年七月廿六日

今般内務省ヨリ戊第三號ヲ以テ神道副總裁 神佛各管長へ左之通達相成候條今後違背ノ輩有之候ハ、直ニ差止置其顛末詳細取調當廳へ可申出此旨相達候事

戊第三號 明治十五年七月十日 神道副總裁 神佛各管長

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年(六月)教部省乙第三十三號達、趣有之候處病者治

療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先ツ服藥ノ有無ヲ証明セシメ果シテ醫師診斷施療中ノ者ニ限リ其望ミニ應シ不苦候條其旨屹度可相心得此旨相達候事

○乙第八十七號 明治十五年十一月十八日

神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設スヘシ其建物巨大コシテ工事數年ニ涉ル可キ者ハ更ニ狀ヲ具シ願出許可ヲ受クル者トス其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スル者ハ滿五年ニ再建シ何レモ其都度當廳へ可届出若シ右期限ニ過キ建設セサル者ハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳ヲ削除候條豫テ可相心得此旨布達候事

○乙第九十四號 明治十五年十一月

縣社以下神社附屬ノ講社コシテ教法部類ニ非ルモノ今後新ニ結集スル者ハ其方法ヲ詳具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ此旨布達候事

○丁第二十九號 明治十六年四月六日

町村戸長

今般左ノ戊第一號ノ通(神道副總裁 神佛各管長)ニ達相成其旨内務卿ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事

戊第一號 明治十六年二月十四日 神道副總裁 神佛各管長

教導職試補申付及試補ヨリ本職ニ撰舉方可見台旨十二年戊第四號ヲ以テ相達置候處自今不及其儀尤モ試補申付ノ儀ハ人物精撰ハ勿論徵兵服役ニ該ルヘキト否トノ條項ヲ詳記シ管轄廳照會ノ上寫相添當省ニ伺出ヘシ此旨相達候事

○丁第二十七號 明治十六年三月廿六日

今般左ノ戊第二號ノ通(神道副總裁 神佛各管長)ニ達相成候旨内務省ヨリ達有之候爲心得此旨相達候事

戊第二號 明治十六年三月十五日 神道副總裁 神佛各管長

各地ニ於テ教會講社結集敷所設置許可ノ節ハ本人ヨリ該地方廳ニ可爲届出此旨相達候事

○丁第八十五號 明治十七年九月五日

今般太政官第十九號布達ヲ以テ寺院ノ住職進退ノ儀各管長ニ委任セラレ候處右進退ニ付明細帳異動ノ儀ハ尙從前ノ通り當廳ニ爲届出候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○戊第十七號 明治十七年十二月九日

十一年縣甲第三十三號ヲ以テ轉宗改式ノ者届出ノ儀布達置候處尙後届出ニ不及候條此旨相達候事

○戊第十八號 明治十七年十二月九日

祠宇并寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物抵當賣買其他寶物古文書等財産ニ關スル諸願ノ儀(寺院ハ本寺 法新連署) 管長ノ添書ヲ要シ候條此旨爲心得相達候事

○戊第三號 明治十八年一月十四日

客年十二月戊第十八號ヲ以テ相達候社寺ニ關スル諸願添申ノ儀ニ付眞宗本

願寺派管長ヨリ左記ノ通内務省へ伺指令相成候旨通知越候條爲心得此旨相達候事

管長添申之儀ニ付伺

御省本年乙第三十七號府縣へ御達文中第二條「諸願ハ寺院ハ本寺 法類連署管長ノ添書ヲ要ス」ト有之候處本派ノ如キハ拙者管長相勤候儀ニ付別ニ本寺住職ノ廉ヲ以テ連署不致左ノ肩書ノ添書ノミヲ以テ出願致度有コテ御差支無之哉此段相伺候也 (明治十七年十一月廿一日)

書面伺之通

(明治十七年十一月十八日)

○丙第六十一號

明治十九年七月十四日

郡役所

今般社寺境内一時貸下ノ件委任候ニ付テハ其取扱方左ノ通心得ヘシ但本文ニ抵觸スル從前ノ達及指令ハ總テ廢止ス

社寺境内借地願取扱心得

第一條 凡テ社寺境内ヲ貸下スルハ左ノ場合ニ限ルヘシ

一 神佛開扉又ハ其他ノ時コ於テ相撲或ハ芝居等ヲ興行セントスルモ他ニ適應ノ場所アラサル時

一 一時便利ノ爲メ休息所等ヲ設クル時

第二條 凡テ社寺境内ヲ貸下スルキハ其風致ヲ毀損シ又ハ不潔汚穢ノ弊害ナキ様注意シ且社寺川若クハ他ニ差支ヲ生スルキハ即時返地スヘキ旨ノ受書ヲ徴シ置クヘシ

第三條 凡テ社寺境内ヲ貸下スルキハ社ハ神官及氏子總代二名以上寺ハ住職及檀家總代二名以上其願書ニ連署セシムヘシ

第四條 第一條ノ場合ト雖モ若シ貸下ノ爲メ社寺ノ不利不便ヲ來シ又ハ火災等ノ虞アルキハ之ヲ貸下スルコトヲ得ス

第五條 凡テ社寺境内ヲ貸下スルキハ借地料ヲ徴收スヘシ但營業上ノ目的ニアラサルモノハ此限リコアラス

第六條 借地料ハ一旦郡役所へ收入ノ上更ニ社殿堂宇修繕費トシテ該社寺

▼百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿ニケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ删除ス

土木之部目次

| | | |
|------------|---|----|
| 甲第九十四號 | 道路條例改正施行…………… | 一頁 |
| 乙第五十三號 | 同上第一種以下道路掃除受持丁場取調方…………… | 一七 |
| 乙第七號 | 人民私費架設橋梁賃錢ノ件…………… | 一七 |
| 土第三百九十五號 | 里道換線編入替取扱手續…………… | 一八 |
| 戊第九號 | 十二年以降郡町村工事ニ係ル新道及換線里程届出ノ件…………… | 一八 |
| 訓令甲第三百九十五號 | 國縣里道修繕往來止榜示建設ノ件…………… | 一八 |
| 訓令甲第三百三號 | 同上取扱手續…………… | 一九 |
| 告示第二百十六號 | 道路管守人心得…………… | 二〇 |
| 縣令甲第八十六號 | 土木監督所區域位置…………… | 二三 |
| 丙第四十號 | 風水害取調表雛形…………… | 二四 |
| 甲第三百三十號 | 管内路線分類等級…………… | 二七 |
| 甲第九號 | 道路分類等級 <small>(二十九ノ一ツヨリ四十三ノ一ツ迄ハ同令達ニ付番號索引略ス)</small> …………… | 二七 |
| 土第五百五十七號 | 道路溝渠溜井堤防新設變換取扱手續…………… | 四四 |
| 土第四百四十五號 | 同上追加…………… | 四五 |
| 甲第三十號 | 道路橋梁支辨規則…………… | 四六 |

ノ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿ニケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ刪除ス

土木之部目次

| | | |
|------------|---------------------------------------|----|
| 甲第九十四號 | 道路條例改正施行 | 一 |
| 乙第五十三號 | 同上第一種以下道路掃除受持丁場取調方 | 一七 |
| 乙第七號 | 人民私費架設橋梁賃錢ノ件 | 一七 |
| 土第三百九十五號 | 里道換線編入替取扱手續 | 一八 |
| 戊第九號 | 十二年以降郡間村工事ニ係ル新道及換線里程届出ノ件 | 一八 |
| 訓令甲第二百九十五號 | 國縣里道修繕往來止榜示建設ノ件 | 一九 |
| 訓令甲第三百三號 | 同上取扱手續 | 一九 |
| 告示第二百十六號 | 道路管守人心得 | 二〇 |
| 縣令甲第八十六號 | 土木監督所區域位置 | 二三 |
| 丙第四十號 | 風水害取調表雛形 | 二四 |
| 甲第三百三十號 | 管内路線分類等級 | 二七 |
| 甲第九號 | 道路分類等級 <small>(二十九ノ一ヨリ四十三ノ一迄)</small> | 二七 |
| 土第五百五十七號 | 道路溝渠溜井堤防新設變換取扱手續 | 四四 |
| 土第千四十五號 | 同上追加 | 四五 |
| 甲第三十號 | 道路橋梁支辨規則 | 四六 |

土木

甲第三十一號 治水堤防費支辨規則…………… 四七

訓令甲第百七十七號 道路橋梁支辨規則取扱手續…………… 四九

訓令甲第百七十八號 治水堤防費支辨規則取扱手續…………… 五一

訓令甲第百七十九號 町村土木補助費申請手續…………… 五三

縣令甲第六十六號 道路ヲ横斷スル下水等費用負擔區域…………… 五四

訓令甲第八號 道路橋梁費ニ關スル件…………… 五五

訓令甲第百卅五號 道路橋梁治水堤防等改築修繕ニ關スル件…………… 五六

訓令甲第八十九號 郡長分任條件中土木ニ關スル事項刪除…………… 五六

十四年十月縣甲第
百二十七號ニテ更
正追加アリ

○縣甲第九十四號 明治十二年八月三十日

昨明治十一年縣甲第三號ヲ以テ頒布候道路條例自今別冊之通改正施行候條
此旨布達候事

改正福島縣道路條例

第一章 要則

第一條 本縣擬キニ道路條例ヲ頒分施行セシ處昨明治十一年第十九號ヲ以
テ地方一般ニ關スル道路橋梁費ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ公布ニ照シ此
條例ヲ改定セシム

第二條 新道開築及路線變換新橋架設等ハ總テ官ノ許可ヲ得テ而後舉行ス
ヘシ

第三條 道路橋梁ニ付公規アルモノハ其成例ニ依テ處分シ此條例ヲシテ相
觸ルコト勿ルヘシ

第二章 道路分類

| | | |
|----------|--------------------|----|
| 甲第三十一號 | 治水堤防費支辨規則 | 四七 |
| 訓令甲第七十七號 | 道路橋梁支辨規則取扱手續 | 四九 |
| 訓令甲第七十八號 | 治水堤防費支辨規則取扱手續 | 五一 |
| 訓令甲第七十九號 | 町村土木補助費申請手續 | 五三 |
| 縣令甲第六十六號 | 道路ヲ横斷スル下水等費用負擔區域 | 五四 |
| 訓令甲第八號 | 道路橋梁費ニ關スル件 | 五五 |
| 訓令甲第百卅五號 | 道路橋梁治水堤防等改築修繕ニ關スル件 | 五六 |
| 訓令甲第八十九號 | 郡長分任條件中土木ニ關スル事項刪除 | 五六 |

十四年十月縣甲第
百二十七號ニテ更
正追加アリ

○縣甲第九十四號

明治十二年八月三十日

昨明治十一年縣甲第三號ヲ以テ頒布候道路條例自今別冊之通改正施行候條
此旨布達候事

改正福島縣道路條例

第一章 要則

第一條 本縣曩キニ道路條例ヲ頒分施行セシ處昨明治十一年第十九號ヲ以
テ地方一般ニ關スル道路橋梁費ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ公布ニ照シ此
條例ヲ改定セシム

第二條 新道開築及路線變換新橋架設等ハ總テ官ノ許可ヲ得テ而後舉行ス
ヘシ

第三條 道路橋梁ニ付公規アルモノハ其成例ニ依テ處分シ此條例ヲ以テ相
觸ル、ト勿ルヘシ

第二章

道路分類

第四條 明治九年(六月)第六十號公達ニ載スル所道路ノ分類等級左ノ如シ

國道

一等 幅員 七間

東京ヨリ各開港場ニ達スルモノ

二等 同 六間

東京ヨリ伊勢ノ宗廟及ヒ各府各鎮臺ニ達スルモノ

三等 同 五間

東京ヨリ各縣廳ニ達スルモノ及ヒ各府各鎮臺ヲ拘聯スルモノ

縣道 幅員 四間乃至五間

一等

各縣ヲ接續シ及ヒ各鎮臺ヨリ各分營ニ達スルモノ

二等

各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スルモノ

三等

著名ノ區ヨリ都府ニ達シ或ハ其區ニ往還スヘキ便宜ノ海港等ニ達スルモノ

里道 要スルニ該區ノ便利ヲ達スルニ在テ其關係スル所隨テ小ナレハ必

ス之レヲ一定スルヲ要セス

一等

彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ甲區ヨリ乙區ニ達スルモノ

二等

用水堤防牧畜抗山製絲場等ノ爲メ該區人民ノ協議ニ依テ別段ニ設クルモノ

三等

神社佛閣及ヒ田畑耕耘ノ爲メニ設クルモノ

第五條 政府ニ於テ定メラレタル分類等級前條ノ如シト雖モ之レカ修費支

出ノ區別ヲ立ンカ爲メ種類ヲ分テ四トス則チ下條ノ如シ

第六條 第一種

國道一等ヨリ三等迄此部ニ入ル蓋シ首府ヨリ四方ニ分派スル國道通運ノ最大脈絡ナルヲ以テナリ

第七條 第二種

縣道一等二等此部ニ入ル蓋シ地方ノ各都會ヲ拘聯スル故ニ施政上ハ勿論一般人民ニ於テモ關係スル所甚タ大ナレハナリ

第八條 第三種

縣道三等里道一等ノ本線(甲乙敷區ヲ貫通スルモノヲ本線トシ夫レヨリ分レテ各部落ニ通スルヲ支線トス)此部ニ入ル蓋シ縣道三等ハ地方ノ物産ヲ運輸シ各部落人民ニ便利ヲ與フルノ線ニシテ則チ敷區(即敷村ヲ云フ)ヲ貫通スル里道一等ニ比シ國脉上ノ關係稍同シケレハナリ

第九條 第四種

里道一等ノ支線及二等三等此部ニ入ル蓋シ關係スル所甚タ小ナルカ故ニ之ヲ道路中最下等トス乃チ最下ノ種トスル所以ナリ

第三章 査定ノ路線

第十條 全管内ニ係ル國縣里道(里道ハ一等本線ノミ)ノ條數並里程等公規ニ照シ査定スル所則チ別表ニ悉載ス

第四章

經費支出ノ區別附沿道住民ノ義務

第十一條 明治五年(十月)第三百廿五號公達并明治十一年第十九號公布ノ趣旨ニ基キ經費支出掃除丁場受持ヲ定ムル下條ノ如シ

第十二條 第十五條ニ掲ケタル市街宿驛等ノ住民支辨スヘキ修費四分ノ三ヲ除ク外第一種第二種ノ道路橋梁費ハ地方税ヲ以テ支出ス

第十三條 第三種ノ道路費ハ沿道各郡町村ノ支出トス
但一役所ニシテ數郡ヲ合轄スルモノハ共同支出スヘシ

第十四條 第四種ノ道路ハ其部落又ハ各人民ニ於テ擔當シ宜ク協議ヲ盡シ

適宜ニ定ムヘシ橋梁モ亦茲ニ准ス

第十五條 第一種二種ノ線路ニ係ル宿驛又ハ稍市街ノ景况（路傍ニ並列シタル家屋凡五十戸以上ニシテ商賈多ク近傍部落ノ人民貿易ノ便ヲ茲ニ採ルノ類以下之ニ倣フ）ヲ具有スル部落ハ該區域中ノ道路費ヲ四分シ其三分ヲ左右地主ヨリ支辨セシメ且平常掃除ヲモ受持タシム尤モ第三種以下ノ路線ニ係ルモノハ總テ該住民ニ負擔セシムヘシ

第十六條 道路ノ種類ヲ問ハス修理ニ際シ其地元村民ニ於テハ官ニ於テ監督スヘキ工事ニ限り起工ノ際一戸ニ付二人迄ハ課役スヘシ

第十七條 第一種第二種第三種ノ道路掃除ハ沿道各郡町村ニテ受持第四種ハ各町村ノ受持トシ持場村々ハ每期掃除スヘシト雖モ地元村ハ常ニ之ヲ保護スヘシ

但一役所ニシテ數郡ヲ合轄スル者ハ共同割合ヲナスヘシ

第十八條 第一種第二種ノ道路ヲ繼續スル橋梁費ハ從來官費支給ノ分ヲ除

クノ外總テ地方稅ヨリ支出ス

第十九條 第三種ノ路線ヲ繼續スル橋梁ハ官費支給ノ分ヲ除クノ外總テ各郡町村ノ負擔トス第四種橋梁費ハ地元村又ハ各部落限り負擔スヘシ

第二十條 何種ノ道路ヲ繼續スル橋梁ヲ問ハス官ニ於テ監督スヘキ工事ニ限り起工ノ際一戸ニ付二人迄使用シ及ヒ雜品（繩索俵繩等）ハ其地元町村ノ負擔トス

第廿一條 從來渡津及ヒ假橋ノ場所ヘ有志者自費本橋ヲ架スルキハ費用償却ノ爲メ其本人ノ請願ニヨリ年限ヲ定メテ橋錢權收ヲ允許スルコトアルヘシ

第廿二條 總テ道路中ヲ横堀シ田地灌漑養水ノ爲メ樋管ヲ設ケ或ハ用惡水ノ溝上ニ架橋スル等ノ費用ハ該部落限り支辨スヘシ

第五章 工事ノ制

第廿三條 第一種ハ國脈上ノ關係最モ多ク緊要ノ大路ナレハ全道ヲテ堅

固清修ナラサルヘカラス故ニ凡四年間チ一回ノ期トシ全線チ四分シ其一分チンテ毎歳復築スルヲ定規トシ第二種以下期年トナシ臨時復築スルヲ例トス

第廿四條 道路ハ公制ノ幅員ヲ要スト雖モ先ツ現形ニ據リ修置シ漸次改修スルヲ目的トス尤モ新道開造ハナルヘク公制ニ從フヘシ

第廿五條 道路ハ總テ直正平坦ナルヲ要ス故ニ築造ノ節ハ迂回ヲ矯正シ峻峻ヲ削平スヘシ

第廿六條 道路ノ形ハ漸圓ニシテ左右溝渠ヘ雨水ノ利スルヲ要ス故ニ其斜傾ヘ勾配全幅三十分ノ二ヲ以テ一般ノ定度トス

第廿七條 市街ハ通運極メテ繁劇ナルヲ以テ道路ノ修築一層堅牢ナラサルヘカラス此故ニ磧礫ヲ敷クハ厚サ八寸ヨリ五寸ヲ減スヘカラス尤モ磧礫ハ一寸方許以下タルヘシ但磧礫ヲ敷クハ五寸以上八寸ニ及フトキハ一寸方許以上ノ磧礫ヲ最下ニ敷キ上面ニハ厚サ二寸ヨリ三寸迄最少ノ割石又

ハ砂磧等ヲ敷クヘシ

第廿八條 第三種以下ノ路線ニ係ル市街西側ノ住民各自家屋前ノ築修ヲ分任セシムルハ道路全幅ヲ四分シ互ニ其三分ヲ持分トス此故ニ全幅四分ノ二(乃チ中間)ハ磧礫重複シテ漸圓形ヲナスヘシ但シ中間ニ流水等アルモノハ其中心ヲ以テ分界スヘシ

第廿九條 阪路高低ノ度ハ豫定シ難シト雖モ大率行程二十間迄ハ一間ニ四寸二十間以上五十間ニ至レハ一間ニ三寸五分五十間以上ニ及ヘハ一間ニ付三寸迄ヲ最高ノ度トスヘシ是則新道ヲ開キ車路ヲ通スルノ定準ナリ現道ノ峻坂ハ修築ノ度毎ニ注意削平シ漸次此度ニ低下スルヲ標準トナスヘシ

第三十條 道路ヲ築造スルニ方テハ先地盤ヲ墾キ平均シ後土質ノ堅軟ヲ査シ該地ニ應シ厚サ三寸ヨリ八寸迄ノ内砂磧ヲ敷クヲ以テ一般ノ通準トス
第卅一條 道路ノ地盤左右ノ地勢ヨリ低キカ或ハ平等ナラハ必ス両側ニ下

水ノ溝渠ヲ設クヘシ

第卅二條 道路ヲ横穿シ通水ヲ要スルモノハ樋管ヲ埋メ或ハ橋梁ヲ架スヘシ

第卅三條 畦路ハ山側ハ一方ニ溝ヲ通シ所々小堀ヲ穿テ或ハ樋管ヲ設ケ聚水ヲ下利スヘシ

第卅四條 市街及ヒ人家前コハ必ス簷下ニ下水ノ小溝ヲ設ケ宅地ノ餘水路上ニ流出セシムヘカラス但下水溝へ板石等ヲ以テ其幾分或ハ全部ヲ覆蔽スルモノハ必ス簷管ヲ架設スヘシ

第卅五條 溝渠ノ兩側ハ石垣或ハ杭柵等ヲ以テナルヘシ堅固ニ構築スヘシ

第卅六條 畦路及ヒ柵道等危険ノ場所ハ欄干ヲ設ケ或ハ岩石ヲ併立スヘシ

第卅七條 橋梁ノ幅員ハ豫メ概定シ難シト雖モ橋經一間未滿ナレハ必ス道路全幅ニ架シ其他ハ人馬往來ノ繁閑ニヨリ路線ノ幅員ニ應ジ架設スヘシ但橋梁ハ總テ高欄ヲ設クヘシト雖モ短經ノ土橋ハ耳芝ヲ置テ之ニ代用ス

第六章 掃除方

第卅八條 路上ノ牛馬糞塵芥及ヒ草蕪ヲ清除スヘシ

第卅九條 路側溝渠ノ停滯ヲ通シ路上ノ雨水ヲ利シ又ハ潦跡ヲ搔平スヘシ

第四十條 路傍ノ侵梢ヲ拂ヒ并木ノ下草ヲ艾除スヘシ

第四十一條 雪後速ニ堆積ヲ拂ヒ人馬ノ通路ヲ開クヘシ

第四十二條 板橋ノ塵芥泥土ヲ除去シ土橋ノ減土ヲ補填スヘシ

第七章 道路取締

第四十三條 路傍ニ附キ家屋等ヲ新築シ又ハ再建スルモノハ豫メ郡役所ノ

實査ヲ受ケ宅地ト道敷トノ境界ヲ正シ界標ヲ設ケ然ル後着手スヘシ

第四十四條 道路中へ新ニ用惡水路ヲ設クル爲メ私ニ堀穿スルコトヲ禁ス

第四十五條 田地床下等ノ餘土ヲ以テ私ニ道路ニ盛土スルヲ禁ス

第八章 施行順序并路橋不通ノ節臨機處分

第四十六條 第一二種ノ路線ハ毎年春秋ノ内縣廳屬官ヲ派シ本年度豫算ノ場所ヲシテ修理着手セシムルテ定期トス

第四十七條 第三種ノ路線并ニ橋梁ニシテ官費補給ノ工事ヲ除クノ外毎年(春秋)二季ノ内郡吏員派出修理着手セシメ全道修成ヲ縣廳ヘ具申スヘシ最モ縣廳ヨリ屬官ヲ派シ三四種路線共臨時指揮セシムルヲアルヘシ

第四十八條 第四種ノ路線并橋梁ハ毎年(春秋)二季ノ内農隙ヲ謀リ期日ヲ定メ戸長ヨリ各部落ヘ徇示シ戸長當日出張指揮シテ修理セシメ其旨郡役所ヘ届出ツヘシ尤モ臨時郡員ヲ派シ指揮セシムルヲアルヘシ

第四十九條 第一種二種ノ線路并右ヲ繼續スル橋梁天災地變等ニテ大ニ破壊シタルハ地元村吏ヨリ直ニ郡役所ニ届クヘシ郡役所ニ於テハ吏員出張該村ノ人夫ヲシテ往來差支ナキ様假道ヲ通シ或ハ假橋ヲ架シ渡舟(過當ノ賃錢ヲ要シ其他旅客ノ困難コレナキ様最モ注意スヘシ)ヲ設クル等臨時ノ處分ヲナシ置キ而其景況ヲ具シ速ニ縣廳ヘ申報スヘク縣廳ニ於テ

ハ臨時官員ヲ派出シ總テ第四十四條ノ手續ニヨリ點檢修理セシムヘシ最モ第三種(官營ヲ除クノ外)修理ハ郡吏員第四種ノ修繕ハ戸長擔當夫々賦役ヲ督シ修治セシムヘシ但第四種ノ中破損至大ニシテ部落限リ力ノ堪ヘ難キハ全村ヨリ扶助セシムル等宜ク協議ヲ盡シ施行スヘシ

第五十條 臨時修理ハ前條ノ通ナリト雖モ非常暴雨出水ノ後ハ必ス戸長ニ於テ路線ヲ巡視シ受持村ニ命シ掃除セシムヘシ

第五十一條 並木根返リ風雪折等ハ並木ノ法度ニ照シ郡役所ニ於テ處分スヘシト雖モ不取敢通路ノ妨碍ナキ様地元村ニテ片付ケ置クヘシ

第五十二條 總テ受持場ハ風雨等ノ損障有無ニ拘ハラヌ三ケ月中一度掃除スヘキ公達ニツキ每期戸長ニ於テ人夫ヲ指揮シ掃除セシムヘシ但春秋二季ノ内修理施行セシ一季ハ掃除ヲ加フルニ及ハスト雖モ他ノ一季ハ尤モ清掃ヲ要スルニ付必ス郡吏員出張指揮シ掃除濟ノ旨縣廳ヘ届クヘシ若シ掃除方不注意ノ場所アラハ臨時屬官ヲ派シ指揮再掃セシムルヲアルヘシ

第九章

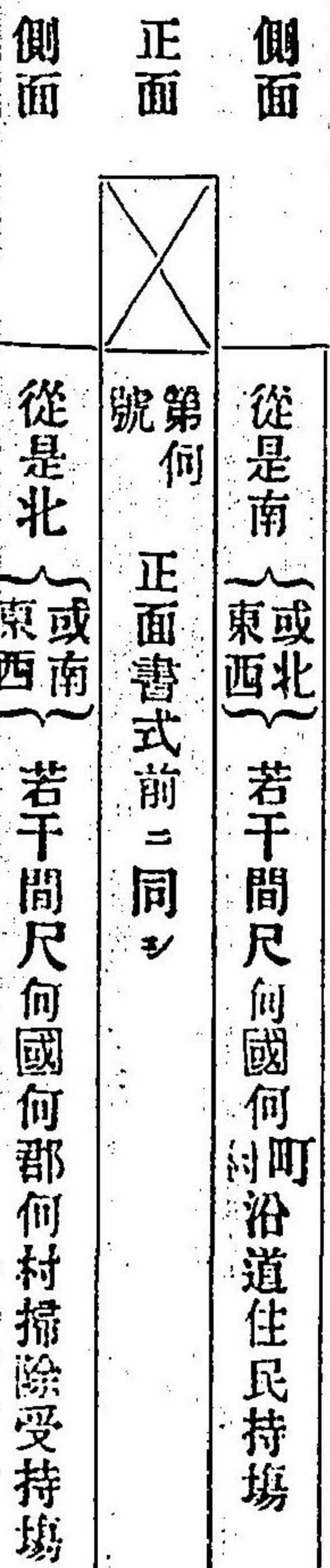
受持場割合附標木

第五十三條 第一種二種三種ノ掃除受持場割合ハ各郡役所ニ於テ起案ヲナシ其郡連合會ニ開議シ縣廳ノ認可ヲ得テ是レヲ定ム

第五十四條 前條持場村割合確定ノ上ハ持場受印表ヲ製シ縣廳ヘ進達スヘシ

第五十五條 第四種ハ町村ノ協議ニ依リ戶長役場ニ於テハ相當受持ヲ定メ置クヘシ

第五十六條 持場境界及ヒ市街住民持分ノ境ハ共ニ左ノ文例ニ準シ界標ヲ建設スヘシ



第五十七條 標木ノ大サ曲尺四寸角地上五尺トス

第五十八條 標木ノ記號ハ縣廳所在ノ方ヲ以テ首位トシ各郡限リ順番ニ附シ第二三種ニ至リテハ路線ノ分離スル處ヨリ其記號ヲ起スヘシ

第五十九條 持場受印表書式

國縣里道共ノ書式ニ倣ヘ

國道壹等道路掃除受持丁場受印表

| | | | | | |
|-------|-----|-------|---|------|-------|
| 地元郡村名 | 字 | 間 | 敷 | 受持村名 | 戶長受印 |
| 何郡何村 | 何ヨリ | 何百何拾間 | 何 | 何村 | 何某(印) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 同 | 同 | 同 | 同 |
|---|---|---|---|

前書之通掃除受持丁場相定ノ村々受印爲致進達候以上

年 月 日 郡 長

縣令宛

第十章 工費收散并賦役

第六十條 第三種ノ道路并橋梁費ニ充ル賦役及ヒ課金ハ郡役所ニ於テ翌年度ノ工事ヲ目論見豫算ヲ立連合會ニ付シ郡長ニ於テ認可ノ上賦課スヘシ若シ郡長認可シ難キモノハ縣廳ノ指揮ヲ乞フヘシ

第六十一條 總テ掃除ニ充ル賦役ハ該町村戸長ヨリ割出スヘシ

第六十二條 天災地變等ニ依リ道路橋梁ノ破壞シタルキ地元又ハ受持村人夫ヲ以テ一時假道假橋ヲ通架シタル分ハ該村ノ賦役トシ別ニ其費ヲ下渡サルヘシ

第六十三條 第三種道路橋梁費ハ郡役所ニ於テ一周年度ノ支拂ヲナシ翌年八月限計算製表ノ上本廳ニ進達シ別ニ一通連合議會ニ報告スヘシ此表ヲ稱ケテ第三種道路橋梁費精算表ト云フ

第六十四條 前條ニ掲ケタル賦役課金ハ一村限リ無洩三ヶ月毎ニ全郡土木一切ノ課金賦役ヲ調査シ縣廳ニ開申スルハ一般土木ノ例規ニ從フヘシ

○乙第五十三號 明治十二年九月二日 郡役所

縣甲第九十四號ヲ以テ改正道路條例布達ニ付テハ各郡役所ニ於テ第三種以下道路橋梁建築修繕ノ儀明治十二年度ヨリ夫々施行候儀ハ勿論ニ候得共第一種以下道路掃除受持丁場ノ儀ハ此際速ニ取調改正條例第五十一條ニ照シ當十月卅一日限訖度相定候様可取計此旨相達候事

○乙第七號 明治十五年一月十八日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用ノ節ニ限リ其賃錢請求不相成候條兼テ許可ノ架橋渡船

及開路願人共へ無漏可相達此旨相達候事

○土第三百九十五號

明治十六年三月廿四日

郡役所

里道幹線編入替ノ儀甲乙郡關係モ單ニ甲郡ノニ連合會決議ノ末上申候向モ有之候處自今甲乙郡關係候節ハ其關係各郡必ラス聯合會決議ノ上該郡長連署上申可致此旨更ニ相達候事

○戊第九號

明治十七年十一月十一日

郡役所

明治十二年以降郡町村ノ工事ニ係ル新道及換線其他里程ニ伸縮ヲ生シタル新舊道路ノ繪圖面及沿道毎町村間實測里程可届出此旨相達候事

但今後ノ工事ニ係ル分ハ落成ノ上本文ノ通其都度可届出候事

○訓令甲第二百九十五號

明治二十年九月廿九日

郡役所 戶長役場

今般街路取締規則發布候ニ付テハ自今官署ノ工事ニ係國縣里道修繕ノ爲メ往來止又ハ片側往來止若クハ牛馬諸車ノ通行止ヲ必要トスルトキハ豫メ日子ヲ限リ其事實ヲ詳記シタル書面ニ略圖ヲ添付シ工事着手以前管轄警察署

又ハ分署へ通知シ左ノ榜示ヲ受取り之ヲ建設シ夜間ハ標燈ヲ点スヘシ其工事終リタルトキハ速ニ該榜示ヲ除去シ直ニ原警察署又ハ分署へ返付スルヲ要ス且ツ成ルヘク工事ノ都合ヲ圖リ片側往來ニ爲シ全部ノ往來ヲ止メサル様取計フヘシ

榜示雛形并ニ書式

豎曲尺一尺横二尺厚サ八分

足杭曲尺九尺但札頂上ヨリ土中ニ埋没スル分共
上段ハ漢字ヲ以テ書シ下段ニハ英文ヲ以テ書ス

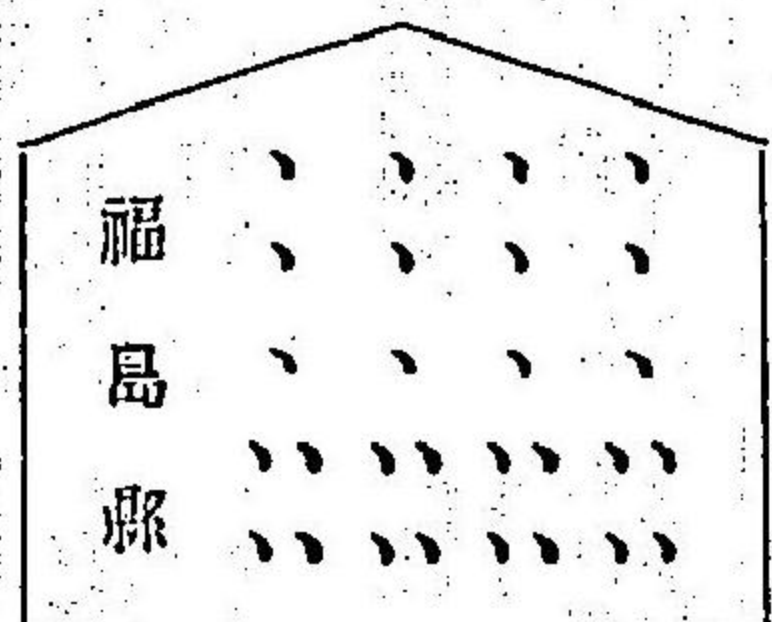
此榜示ハ往來止片側往來止牛馬諸車通行止ノ三種トス

○訓令甲第三百三號

明治二十年十月十五日

郡役所 戶長役場

明治二十年(十月十三日)縣令甲第百二十二號違警罪第二條第一項ニ掲ケタル榜示ヲ建設セントスルトキハ其場所及事由ヲ詳記シタル書面ニ榜示ノ文



福島縣

按チ添付シ縣廳へ上申シテ指揮ヲ受ケ縣名ヲ以テ之ヲ建設スヘシ

但從來建設ノ分ト雖日本文ニ准シ取扱フヘシ

○告示第二百十六號 明治廿二年七月十八日

國縣道道路管守人心得左ノ通更正シ本年八月一日ヨリ施行ス

道路管守人心得

第一條 道路管守人ハ各土木區ニ配置シ其監督所ノ直轄トナス

第二條 道路管守人ノ配置所並ニ受持區域ハ別表ニ掲ル所ニ依ル

第三條 道路管守人ハ毎日受持線路ヲ巡視シ暴風雨等アルトキハ夜間ト雖

モ臨時ニ巡視スヘシ

但受持線路ハ其兩線ニ涉ル者ハ隔日ニ巡視シ其三線ニ涉ルモノハ三日

間ニ更巡スルモノトス

第四條 管守人ハ道路ノ窪穴溝渠ノ壅塞等ノ瑣少ノ分ハ即時修理ヲ加ヘ破

壞ノ兆アルモノハ直ニ防遏ノ手配ヲ爲スヘシ

第五條 道路橋梁暗溝ノ破壞等入夫ヲ要セサレハ修理シ難キトキハ速ニ所

轄監督所へ申出ヘシ

第六條 道路ノ並木根覆リ風折雪損等ニテ往來ニ障碍アルトキハ直ニ通行

シ得ラル、迄ノ手配ヲ爲シ其旨速ニ監督所へ申出ヘシ

第七條 受持區内地方稅支辨ノ治水堤防等ハ巡視ノ途次注意ヲ加ヘ破壞ノ

兆アルモノハ速ニ監督所へ通報スヘシ

第八條 病氣其他ノ事故ニテ巡視ヲ欠ク時ハ其旨速ニ監督所へ届出ヘシ

但欠勤七日以上ニ涉ル時ハ日割ヲ以テ俸給ヲ減額ス

國縣道々路管守人受持區域表

| 所屬部 | 所在地名 | 受持地名 | 同上里程 | 合里程 | 人員 |
|-----|-----------|-----------|-------|-------|----|
| 中部 | 西白河郡川崎村大字 | 栃木縣界 | 四里十二丁 | 八里廿四丁 | 一人 |
| | 大田川 | 須賀川 | 四里十三丁 | | |
| | 安積郡 | 須賀川 | 三里十三丁 | | |
| | 郡山町 | 高川村大字熱海 | 三里卅丁 | 七里十五丁 | 一人 |
| | | 富久山村大字久保田 | 八 | | |

| | | | | | | | | | | |
|----------|----------|--------|----------|-----------|-----------|-----------|--------|----------|--------|--------|
| 同郡富久山村大字 | 信夫郡松川村 | 同郡瀬ノ上村 | 同郡中野村字大瀧 | 安達郡高川村字熱海 | 東白川郡常豊村大字 | 西白河郡釜ノ子村 | 田村郡飯豊村 | 伊達郡石戸村大字 | 磐前郡湯本村 | 檜葉郡廣野村 |
| 三春町 | 杉田村大字北杉田 | 福島縣保原町 | 福島縣宮城町 | 本宮町 | 茨城縣社川村大字堤 | 白河縣社川村大字堤 | 檜葉郡界 | 宇多郡界 | 茨城縣界 | 富岡村 |
| 三里三丁 | 四里三丁 | 一里十五丁 | 一里廿三丁 | 二里卅三丁 | 四里廿四丁 | 三里九丁 | 四里七丁 | 二里卅四丁 | 五里十六丁 | 四里十四丁 |
| 七里十八丁 | 七里六丁 | 六里卅四丁 | 七里十七丁 | 六里十三丁 | 九里二丁 | 七里十七丁 | 八里十七丁 | 七里十三丁 | 九里廿六丁 | 八里十五丁 |
| 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 |

| | | | | | | | | | |
|--------|--------|------------|-----------|----------|-----------|--------|---------|-----------|----------|
| 標葉郡浪江村 | 宇多郡中村町 | 磐城郡上小川村字江田 | 宇多郡山上村字圓淵 | 耶麻郡翁島村大字 | 北會津郡神指村大字 | 河沼郡野澤村 | 南會津郡田島村 | 北會津郡大戸村大字 | 耶麻郡岩月村大字 |
| 富岡村 | 原町 | 平田郡界 | 中村郡界 | 若松郡界 | 若松町 | 飯谷村大字藤 | 飯谷村大字藤 | 長江村大字彌五島 | 山形縣界 |
| 四里卅五丁 | 四里卅三丁 | 四里廿六丁 | 二里六丁 | 三里廿八丁 | 四里十五丁 | 四里十丁 | 四里廿七丁 | 三里卅二丁 | 四里卅二丁 |
| 十里三丁 | 九里四丁 | 八里廿六丁 | 五里廿九丁 | 八里卅三丁 | 八里廿五丁 | 七里廿七丁 | 八里廿五丁 | 七里廿九丁 | 八里十八丁 |
| 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 |

○縣甲第八十六號

明治廿二年八月十八日

本縣管内地方稅經濟ニ屬スル河港道路橋梁堤防暗溝ヲ區畫シ土木區及監督

土木

二三

| | | |
|---------|-------|--------------|
| 同 | 郡沼澤村 | 二里十一町二十間 |
| 同 | 郡太郎布村 | 三十一町十七間 |
| 同 | 郡川口村 | 三十五町五十八間 |
| 同 | 郡西谷村 | 二十二町十六間四尺 |
| 同 | 郡横田村 | 二里廿五町五十四間一尺 |
| 同 | 郡澁澤村 | 一里三町三間五尺 |
| 南會津郡鹽澤村 | | 一里二十町五十一間五尺 |
| 同 | 郡叶澤村 | 一里二十六町四十五間一尺 |
| 同 | 郡只見村 | 二十六町三十三間五尺 |
| 同 | 郡黒谷村 | 一里三十三町一間 |
| 同 | 郡大倉村 | 一里三十三町三十六間五尺 |
| 同 | 郡和泉田村 | 一里二十九町十八間四尺 |
| 同 | 郡山口村 | 一里五町十間 |

同 郡青柳村 一里四十五間五尺

同 郡大桃村 三里十一町二十二間五尺

同 郡檜枝岐村 三里十七町十八間三尺

同 郡管轄界 三里三十三町六間一尺

合里程三十六里十四町二十七間四尺余

○縣甲第三百三十五號 明治十四年十一月五日

明治十二年(十月)縣甲第三百三十號布達道路分類等級表中信夫郡瀨ノ上村上飯坂村并伊達郡湯野村茂庭村ヲ經テ宮城縣管轄界ニ達スル路線國道三等相當ノ名稱ヲ廢シ里道一等本線ニ組入レ更ニ信夫郡福島町ヨリ中野村及伊達郡茂庭村ヲ經テ山形縣下羽前國南置賜郡梓山村字新安へ接續スル路線ヲシテ國道三等相當線ニ改定候條此旨布達候事

但福島町元標ヨリ伊達郡茂庭村字杭甲隧道口迄里程七里十九町三十二間三尺

○縣甲第四百十六號 明治十四年十二月

福島ヨリ庭坂李平ヲ經テ山形縣下置賜ニ至ル路線自今縣道三等ノ名稱ヲ廢ス

○乙第二十三號 明治十七年二月廿二日

管下岩代國北會津郡若松方部左ノ三線新線等級縣道一等ニ仮定候條此旨布達候事

第一

岩代國北會津郡若松以南南會津田島栃木縣下太田原驛ヲ經テ東京ニ達スル路線

第二

岩代國北會津郡若松以北耶麻郡喜多方及山形縣下米澤山形驛ヲ經テ秋田青森兩縣ニ達スル路線

第三

岩代國北會津郡若松ヨリ新潟縣ニ達スル路線

○乙第三十一號 明治十七年四月八日

左之通道路里道一等相當ニ假定候條此旨布達候事

磐城國田村郡常葉村地内字中町ヨリ分レ同郡關下村ヲ經テ下大越村地内ニ於テ里道一等線ニ合スル路線

○乙第五十號 明治十八年五月十三日

管下岩代國安達達中山村ヨリ耶麻郡山瀉村ヲ經テ同郡壺揚村ニ達スル里道ヲ縣道一等トシ中山村ヨリ直チニ壺揚村ニ達スル舊道ヲ里道二等ニ假定候條此旨布達候事

○乙第二百二十二號 明治十八年十一月十九日

明治十二年縣甲第三百三十號中從福島驛至平驛路線及三春ヨリ仲ノ作小名濱ニ至ル道路分類等級左之通改定候條此旨布達候事

一岩代國安積郡山驛ヨリ磐城國田村郡三春小野新町檜葉郡川前磐城郡上

一 小川ノ驛村ヲ經テ平驛ニ至ル線路ヲ以テ自今縣道二等ニ假定ス

但田村郡守山谷田川磐前郡上三坂等ノ驛村ヲ經テ平驛ニ至ル縣道二等相當及三春驛ヨリ柳橋小野新町ヲ經テ上三坂驛ニ達スル縣道三等相當路線ハ自今里道一等ニ假定ス

○乙第二百二十三號 明治十八年十一月十九日

岩代國信夫郡福島町ヨリ磐城國宇多郡中村ニ達スル縣道二等相當中村街道中伊達郡保原村ヨリ同郡掛田石田等ノ諸村及宇多郡東玉野村ヲ經テ同郡山上村字落合ニ達スル換線開鑿工事落成ニ付自今本道ヲ以テ縣道二等ニ假定ス

○乙第三百三十號 明治十八年十二月廿六日

明治十二年縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ通追加候條此旨布達候事
磐城國田村郡古道村里道線中ヨリ岐レ標葉郡野上村ヲ經テ同郡前田村地内ニテ第十五號國道線ニ會合シ該線中同郡長塚村ヨリ岐レ請戸村ニ通スル路

十九年九月甲第二號ヲ以テ削除アリ

線ヲ以テ自今里道一等ニ假定ス

○乙第十七號 明治十九年二月四日

明治十二年縣甲第三百二十號布達道路分類等級中左ノ通追加候條此旨布達候事

磐城國西白河郡矢吹驛ヨリ同國東白川郡赤坂西ノ村ノ内字塚本ニ至ル里道一等相當線ヨリ分レ同郡赤坂中ノ村及ヒ菊多郡貝沼村ヲ經テ同郡關田村ニテ第十五號國道ニ合スル路線ヲ以テ自今里一等ニ假定ス

○乙第二十三號 明治十九年三月十七日

明治十二年縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ通改定候條此旨布達候事

岩代國北會津郡若松ヨリ大沼郡水玉及ヒ南會津郡大内榮富ノ村々ヲ經同郡豐成村ニテ縣道一等相當線ニ合スル縣道三等相當線路ヲ自今里道一等ニ假定ス

○甲第二十四號 明治十九年七月七日

明治十二年(十月)縣甲第百三十號布達道路分類中左ノ通追加ス

一安積郡郡山驛ヨリ同郡富田堀ノ内安子ヶ島ノ諸村ヲ經テ安達郡高玉村字熱海ニ達ス
仮定縣道一等越後街道ニ合スル路線ヲ以テ自今縣道三等ニ仮定ス

○縣令甲第四十七號 明治十九年十一月廿三日

明治十二年(十月)縣甲第百三十號布達道路分類中左ノ通り改正ス

一第十五號國道宇多郡小泉村ヨリ分岐シ同郡黒木初野兩村地内ヲ經宮城縣管轄界ニ至ル道路ハ爾今里道一等ノ名稱ヲ廢シ黒木村ヨリ椎木村ヲ經宮城縣管轄界ニ至ル道路ヲ以テ里道一等ニ假定ス

○縣甲第五十號 明治十九年十二月九日

明治十二年(十月)縣甲第百三十號布達道路分類中左ノ通改正ス

一假定縣道一等茨城街道路線中東白川郡内八槻村字新山ヨリ伊香村ヲ經テ下石井村字大内澤ニ至ル路線縣道一等ノ名稱ヲ廢シ更ニ八槻村地内字新

田ヨリ塙村ヲ經テ下石井村地内字大内澤ニ至ル路線ヲ以テ縣道一等ニ假定ス

○縣甲第五十二號 明治十九年十二月九日

明治十二年(十月)甲第百三十號布達道路分類左ノ通追加ス

一假定縣道一等茨城街道路線中東白川郡塙村ヨリ岐レ同郡川上村那倉村等ヲ經テ茨城縣多賀郡平瀧港ニ達スル路線ヲ以テ自今縣道三等ニ假定シ平瀧街道ト稱ス

一同上路線中同郡東館村ヨリ岐レ同郡關岡村内川村等ヲ經テ茨城縣久慈郡太子驛ニ通スル路線ヲ以テ里道一等ニ假定シ太子街道ト稱ス

○縣令甲第三十六號 明治二十年二月廿六日

第三十九號國道線中信夫郡南澤又村地内ヨリ分岐シ同郡飯坂村ニ通スル路線ヲ以テ自今里道第一等ニ假定ス

○縣令甲第三十九號 明治二十年三月三日

明治十二年(十月)縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ路線ヲ追加シ自今里道一等ニ假定ス

一 田村郡小野新町村ヨリ小野山神村等ヲ經テ同郡田母神村地内ニ於テ郡山ヨリ平ニ通ル假定里道一等線ニ會合スル路線

一 田村郡谷田川村ヨリ石川郡堤村地内ヲ經テ同郡江持村ニ於テ三春ヨリ須賀川ニ達スル假定里道一等線ニ會合スル路線

○縣甲第九十八號 明治二十年七月五日

明治十二年縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ通追加ス

一 仮定縣道一等會津街道中南會津郡系澤村地内ヨリ分岐シ瀧ノ原八總熨斗戸中ノ井等ノ諸村ヲ經同郡内川村ニ至リ仮定縣道三等沼田街道ニ達スル道路ノ儀自今里道一等ニ假定ス

○縣令甲第百號 明治二十年七月廿一日

明治十二年縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ通追加ス

一 伊達郡桑折驛ヨリ伏黒保原大泉金原田山川ノ諸村ヲ經同郡大石村ニ達スル道路ノ義自今里道一等ニ假定ス

○縣令甲第百十七號 明治十二年九月廿七日

明治十二年(十月)縣甲第百卅號道路分類へ左ノ通追加シ里道一等ニ假定ス

一 假定縣道二等磐城街道中安積郡福原村地内ヨリ分岐シ同村及八山田村ヲ經堀ノ内村地内ニ於テ假定縣道三等安積街道へ合スル線路

一 假定縣道一等茨城街道中安積郡福良村ヨリ分岐シ同郡舟津村館村横澤村濱路村ヲ經耶麻郡山瀉村地内ニ於テ假定縣道一等越後街道へ合スル線路

一 第六號國道中安積郡郡山村ヨリ分岐シ同郡桑野村大槻村多田野村中野村ヲ經舟津湖岸ニ達スル線路

一 第六號國道中安積郡小原田村ヨリ分岐シ同郡荒井村成田村川田村ヲ經駒屋村ニ於テ同郡桑野村ヨリ田島ニ達スル假定里道一等線へ合スル線路

一 安積郡福良村湖岸ヨリ同村及馬入新田村ヲ經テ白河町ヨリ田島村ニ達ス

ル假定里道一等線へ合スル線路

- 一 安積郡早稻原村ヨリ假定縣道三等安積街道中同郡堀ノ内村ニ達スル線路
- 一 假定縣道二等磐城街道中田村郡飯豐村ヨリ分岐シ同郡浮金村柳橋村中津川村下枝村高倉村赤沼村下行台村安積郡横塚村ヲ經同郡郡山村ニ於テ第六號國道へ合スル線路

- 一 安達郡小濱村ヨリ同郡西勝田村上長折村西新殿村東新殿村白木目村田澤村及ヒ山木屋村地内ヲ經テ福島ヨリ富岡ニ達スル假定里道一等線ニ合スル線路

- 一 右同線中百目木村ヨリ分岐シ田村郡石澤村ニ於テ三春ヨリ中村ニ達スル假定里道一等線ニ合スル線路

- 一 安達郡小濱村ヨリ小濱成田村長屋村和田村糠澤村高木村ヲ經テ第六號國道中同郡本宮村ニ達スル線路

○縣令甲第二百二十三號 明治二十年十月十四日

明治十二年(十月)縣甲第三百三十號布達道路分類へ左ノ通追加シ里道一等ニ假定ス

- 一 第六號國道中西白河郡矢吹村ヨリ分岐シ岩瀬郡柿ノ内村高林村保土原村矢田野村梓衝村小中村ヲ經同郡長沼村ニ於テ假定縣道一等茨城街道へ合スル線路

○縣令甲第二號 明治廿一年一月十八日

明治十二年(十月)縣甲第三百三十號布達道路分類中左之通追加ス

- 一 伊達郡桑折驛ヨリ上郡下郡伊達崎中瀬向河原粟野等ノ諸村ヲ經テ同郡梁川驛ニ達スル新道自今里道一等ニ假定ス

○縣令甲第十八號 明治廿一年二月廿五日

明治十二年(十月)縣甲第三百三十號布達道路分類中左之通加除ス

- 一 信夫郡福島町ヨリ同郡波利伊達郡秋山等ノ諸村ヲ經テ川俣驛ニ達スル道路ノ義自今里道一等ノ名稱ヲ廢ス

一信夫郡方木田村地内第六號國道ヨリ分岐シ同郡小倉寺渡利伊達郡立子山青木鶴澤等ノ諸村ヲ經テ川俣驛ニ達スル線路及線中青木村ヨリ分岐シ飯野村ニ達スル線路ノ義自今里道一等ニ假定ス

○縣甲第三十四號 明治廿一年四月十四日

田村郡平澤村ニ起リ同郡三丁目村及安積郡日和田村早稻原村等ヲ經テ同郡安子ヶ島村ニ達スル里道一等線中早稻原村安子ヶ島兩村間自今假定里道一等ノ名稱ヲ廢ス

○縣令甲第六十七號 明治廿一年六月十六日

明治十二年(十月)縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ通追加ス

一磐前郡上三坂村地内仮定里道一等線ヨリ分岐シ石川郡北方小平中倉中田双里ノ敷村ヲ經テ石川村ニ達スル道路ノ義自今里道一等ニ假定ス

○縣令甲第十二號 明治廿二年二月廿三日

左ノ道路自今里道一等ニ假定ス

一伊達郡保原村ヨリ中瀬伊達崎塚ノ目三ヶ村地内ヲ經テ同郡藤田村ニ達スル線路

○縣令甲第五十二號 明治廿二年四月廿六日

明治十二年縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ四線ヲ追加シ自今里道一等ニ假定ス

一磐城郡四ッ倉町地内第十五號國道線ヨリ分岐シ大野平窪兩村地内ヲ經テ同郡下小川村ニ於テ假定縣道二等磐城街道ニ合スル線路

一磐前郡小名濱町地内假定縣道三等小名濱街道ヨリ分岐シ玉川磐崎兩村地内ヲ經テ同郡湯本村地内ニ於テ第十五號國道線ニ合スル線路

一磐前郡飯野村地内假定縣道三等小名濱街道ヨリ分岐シ高久豊間兩村地内ヲ經テ同郡江名村ニ達スル線路

一菊多郡鮫川村地内第十五號國道線ヨリ分岐シ山田村ヲ經テ上遠野村ニ於テ假定里道一等御齋所街道ニ合スル線路

○縣令甲第五十七號

明治廿二年四月廿七日

明治十二年縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ一項ヲ追加シ自今里道一等ニ假定ス

一西白河郡白河町地内第六號國道ヨリ分岐シ同郡白坂村地内ヲ經テ柄木縣下芦野町ニ達スル線路

○縣令甲第八十二號

明治廿二年七月二日

明治十二年十月縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ一項ヲ追加シ自今里道一等ニ假定ス

一假定縣道一等茨城街道中東白川郡近津村大字八槻地内新田ヨリ分岐シ高城村大字臺宿伊香植田地内ヲ經關岡地内ニ於テ假定里道一等太子街道ニ接續スル線路

○縣令甲第七號

明治廿二年九月廿七日

明治十二年十月縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ通追加シ自今里道一等

ニ假定ス

一伊達郡梁川町地内ヨリ大枝村大字東大枝及ヒ大木戸村大字光明寺地内ヲ

經テ同村大字貝田ニ於テ第六號國道ニ達スル線路

一同郡靈山村大字大石地内ヨリ同村大字中川石戸村大字山戸田石田小手川

村大字御代田月館小手村大字糠田上手渡福田村大字秋山立木村大字青木

立子山飯野村大字飯野安達郡下川崎村大字沼袋信夫郡金谷川村大字金澤

等ヲ經松川村地内ニ於テ第六號國道ニ達スル線路及ヒ同線中安達郡下川

崎村大字沼袋字北原ヨリ分岐シ字下田ニ於テ假定里道一等線ニ合スル線

路

○縣令甲第一百五號

明治廿二年十月八日

明治十二年十月縣甲第三百三十號布達道路分類中左ノ一項ヲ追加シ自今里道一等ニ假定ス

一大沼郡野尻村大字野尻地内假定里道二等線ヨリ分岐シ同村大字下中津小

中津大蘆村大字佐倉喰丸小野川尾岐村大字松坂西尾西本吉田旭村大字杉原藤川村大字富川勝原等ヲ經テ本鄉村ニ於假定里道一等線ニ合スル線路
○土第百五十七號 明治十八年二月十八日 郡役所

河港道路堤塘用惡水路溝渠溜井等新設又ハ變換等ノ義ニ付明治十四年十二月戊土第百三號及同十六年八月土第九百五十六號ヲ以テ相違置候處自今左之通更正候條此旨相達候事

一潰地一筆限明細取調ノ事

但主任檢印

一圖面添付ノ事

但圖面ハ實測圖ヲ要ス若シ實測圖無之モノハ見取圖ヲ製シ新舊間數幅員等詳細記スヘシ

一潰地々種組替見込調書添付ノ事

一舊敷地存廢見込記載ノ事

一目論見帳添付ノ事

但工事ノ費協議費或ハ寄附金等種別記載スヘシ

一工事出願ノ節他ニ障害ノ有無詳細取調添申ノ事

○土第千四十五號

明治十八年八月十八日

各郡役所

河港道路堤塘用惡水路溝渠溜井其他新設又ハ變換等出願ノ際科目取調ノ義本年二月土第百五十七號ヲ以テ相違置候處尙左ノ四項追加候條此旨相達候事

一新道里程

但幅員并坂路ハ勾配及變換ニ係ル村落等ヲ記載ノ事

一舊道里程

但同上

一新舊里程比較伸縮ノ課

(右三ヶ條ハ繪圖面へ認メ込ムヘシ)

治水堤防費支辨規則別冊ノ通相定メ明治二十年度ヨリ施行ス

治水堤防費支辨規則

第一條 地方税ヲ以テ支辨スヘキ工費左ノ如シ

一 河川修築費

但地方税ヲ以テ支辨セシ慣行アルモノニ限ル

二 港灣及沙除修築費

三 運河開修費

第二條 關係町村費ヲ以テ支辨スヘキ工費左ノ如シ

一 地方税所屬外各川修築費

二 樋閘堰埭溜池用悪水路修築費

第三條 地方税所屬ノ工事ト雖モ地方便宜ニ依リ縣令ノ許可ヲ受ケ町村費ヲ以テ支辨シ若シハ關係部落人民ニ於テ負擔スルコトヲ得

第四條 第二條ノ築造ハ縣令ノ認可ヲ受ケ起スヘシ

第五條 前二條ノ場合ニ於テハ係官ヲ派遣シ巡檢セシムルコトアルヘシ

○訓甲第七十七號

明治十九年十二月廿四日

郡役所

戸長役場

道路橋梁費支辨規則取扱手續左之通相定ム

道路橋梁費支辨規則取扱手續

第一條 戸長數人ノ所轄ニ涉ル町村費ノ工事ハ郡長之ヲ施行スヘシ

第二條 一町村若シハ數町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ其關係戸長數人ノ所轄ニ涉ラサルモノハ戸長之ヲ施行スヘシ

第三條 前二條ノ場合ト雖モ臨時縣官ヲ派遣シ工事指揮スルコトアルヘシ

第四條 地方税支辨ノ道路橋梁ニシテ天災地變若シハ其他ノ事故ニ因リ破壊又ハ落橋等ニ罹リタルトキハ地元戸長ハ其實況ヲ取調直ニ郡長ニ届出ツヘシ若シ落橋等ニ因リ人馬ノ通行ヲ絶ツ場合ハ戸長ニ於テ一時通行ヲ得ルノ所置ヲ爲スヘシ

第五條 前條届出アレハ郡長ハ直ニ主任郡書記ヲ派遣シ實地檢査ノ上成規

ニ據リ處分スヘシ

但成規ニ據リ難キ場合ニ於テハ假道又ハ假橋渡シ舟場ヲ設ケ一時通行
シ得ルノ處分ヲナシ其實況ヲ具シ速ニ電報又ハ飛報ヲ以テ縣廳ヘ届出
ヘシ

第六條 洪水ノ際ハ總テ橋梁ノ破壞又ハ流失ナキ様地元村民ヲシテ保護セ
シムヘシ

第七條 並木根返リ風雪折等アルキ地元戸長ハ道路ノ障礙ナキ様取計置其
旨郡長ヘ届出ヘシ

第八條 地元戸長ハ少クモ三ヶ月毎ニ一度ハ時期ヲ計リ受持町村ヲシテ掃
除セシムヘシ

但時宜ニ依リ臨時ニ之ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 町村内ノ道路ハ市街宿驛ハ勿論其他ト雖モ路傍居住ノ人民ヲシテ
掃除セシムヘシ

第十條 地元戸長ハ每期掃除施行濟ノ上其旨縣廳ニ届出ヘシ

第十一條 掃除受持場境界標木ハ左ノ雛形ニ據リ建設スヘシ



第十二條 道路ノ掃除ハ途上ノ生草又ハ塵芥ヲ取除キ清潔ナラシムヘキハ
勿論欠所土盛り惡水拔溝浚ヒ等ノ如キ小補理ニ属スルモノハ其際手入セ
シムヘシ

第十三條 前條々ノ外別ニ條規例則アルモノハ其成規ニ據ルヘシ
○訓令甲第七十八號 明治十九年十二月廿四日 郡役所 戸長役場

治水堤防費支辨規則取扱手續左之通相定ム
治水堤防費支辨規則取扱手續

第一條 戶長數人ノ所轄ニ涉ル町村費支辨ノ治水堤防及用惡水路等ノ工事ハ郡長之ヲ施行スヘシ

第二條 一町村若クハ數町村費支辨ノ治水堤防及用惡水路等ノ工事ニシテ其關係戶長數人ノ所轄ニ涉ラサルモノハ戶長之ヲ施行スヘシ

第三條 治水堤防ノ工事ハ起工ニ先テ左ノ各項ヲ詳具シ當廳ノ許可ヲ請フヘシ

一 實測圖面

但工事築設ノ位置ヲ赤色ニシテ記入シ且其長高幅等ノ間數ヲ書載スヘシ

二 工事目論見帳

三 對岸隣地ノ町村ニ於テ故障ノ有無

第四條 用惡水路等ノ修繕ハ郡長又ハ戶長ニ於テ直ニ施行スルヲ得

第五條 前條ノ工事ト雖モ時宜ニ依リ縣官ヲ派遣シ事業上ニ就キ其利害ヲ

視察シ指揮セシムルヲアルヘシ

第六條 前條々ノ外別ニ條規例則アルモノハ各其成規ニ據ルヘシ

○訓令甲第七十九號 明治十九年十二月廿四日 郡役所 戶長役場

町村土木補助費申請手續左ノ通相定ム

町村土木補助費申請手續

第一條 道路橋梁費支辨規則第三條以下ノ工事ニシテ補助ヲ請ハント欲スルハ其事實ヲ具シ尙左ノ事項ヲ取調當廳ヘ申出ヘシ

一 實測圖面

但道路ハ延長幅員及高底度數橋梁ハ長及幅員等ヲ書載スヘシ

二 工事目論見帳

三 町村會又ハ聯合町村會ノ評決金高

四 前項金員或ハ人夫賦課ノ戶數反別地價及營業稅額

五 其年度間ニ於テ賦課徵收シタル町村費額及賦課法割合ノ町村限反別

第二條 治水堤防費支辨規則第二條ノ工事ニシテ補助ヲ請ハント欲ス

キハ其事實ヲ具シ尙左ノ事項ヲ取調當廳ヘ申出ヘシ

一 實測圖面

但工事築設ノ位置ヲ赤色ニシテ記入シ且其長高幅員等ノ間數ヲ書載スヘシ

二 工事目論見帳

三 町村會又ハ聯合町村會水利土功會ノ評決金高

四 前項金員或ハ人夫賦課ノ戶數反別地價及營業稅額

五 其年度間ニ於テ賦課徵收シタル町村費額及賦課法割合ノ町村又ハ部落限反別

第三條 前二條ノ請求アレハ臨時縣官ヲ派遣シ實地ヲ検査セシメ又補助ヲ許可シタル事業ニ就テハ利害ヲ視察シ之カ指揮ヲナスコトアルヘシ

○縣令甲第六十六號

明治二十年四月二十日

道路橋梁費支辨規則第五條ニ據リ道路ヲ橫斷スル用惡水等ノ暗溝樋管及橋梁費負擔區域左ノ通相定ム

一 國縣道ヲ橫斷スル用水ノ暗溝樋管等及長二間未滿ノ橋梁費ハ關係町村又

ハ關係人民ノ支辨トシ長二間以上ノ橋梁ハ地方稅ノ支辨トス

一 國縣道ヲ橫斷スル惡水ノ暗溝樋管及橋梁費ハ總テ支辨トス

一 里道一等以下ノ道路ヲ橫斷スル用惡水等ノ暗溝樋管及橋梁ハ町村聯合會

若クハ水利土功會ノ評決ニ依リ支辨スヘシ

○訓令甲第八號

明治廿一年一月二十日

郡役所 戶長役場

明治十九年七月甲第三十號布達道路橋梁費支辨規則第三條ノ道路橋梁費ト雖此地方ノ便宜ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケ一町村又ハ數町村費ヲ以テ支辨スルヲ得ル義ト心得ヘシ

○縣令甲第八十九號

明治廿二年八月一日

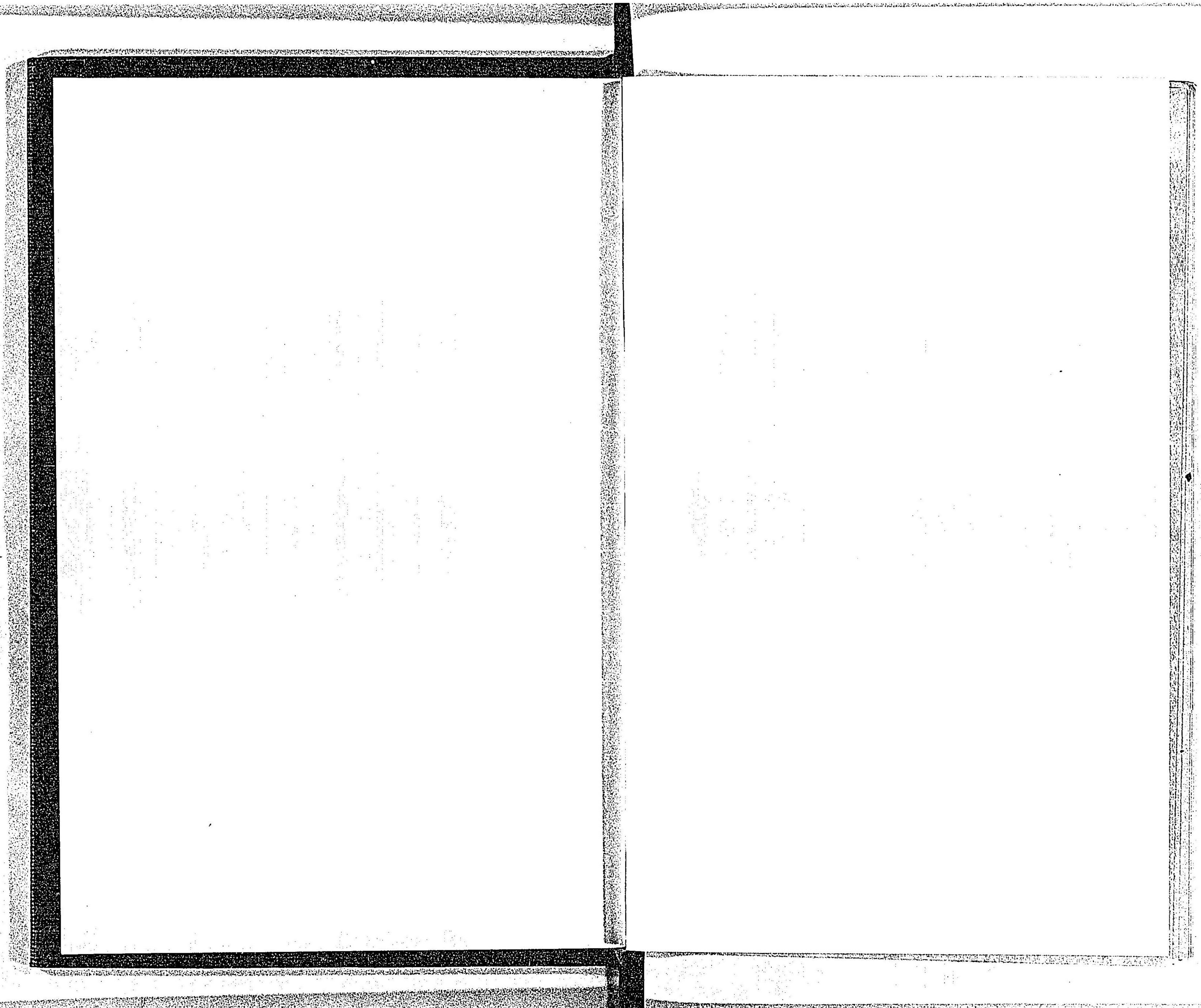
縣令甲第八十六號ヲ以テ本縣土木監督所設置候ニ付明治十九年縣令甲第十

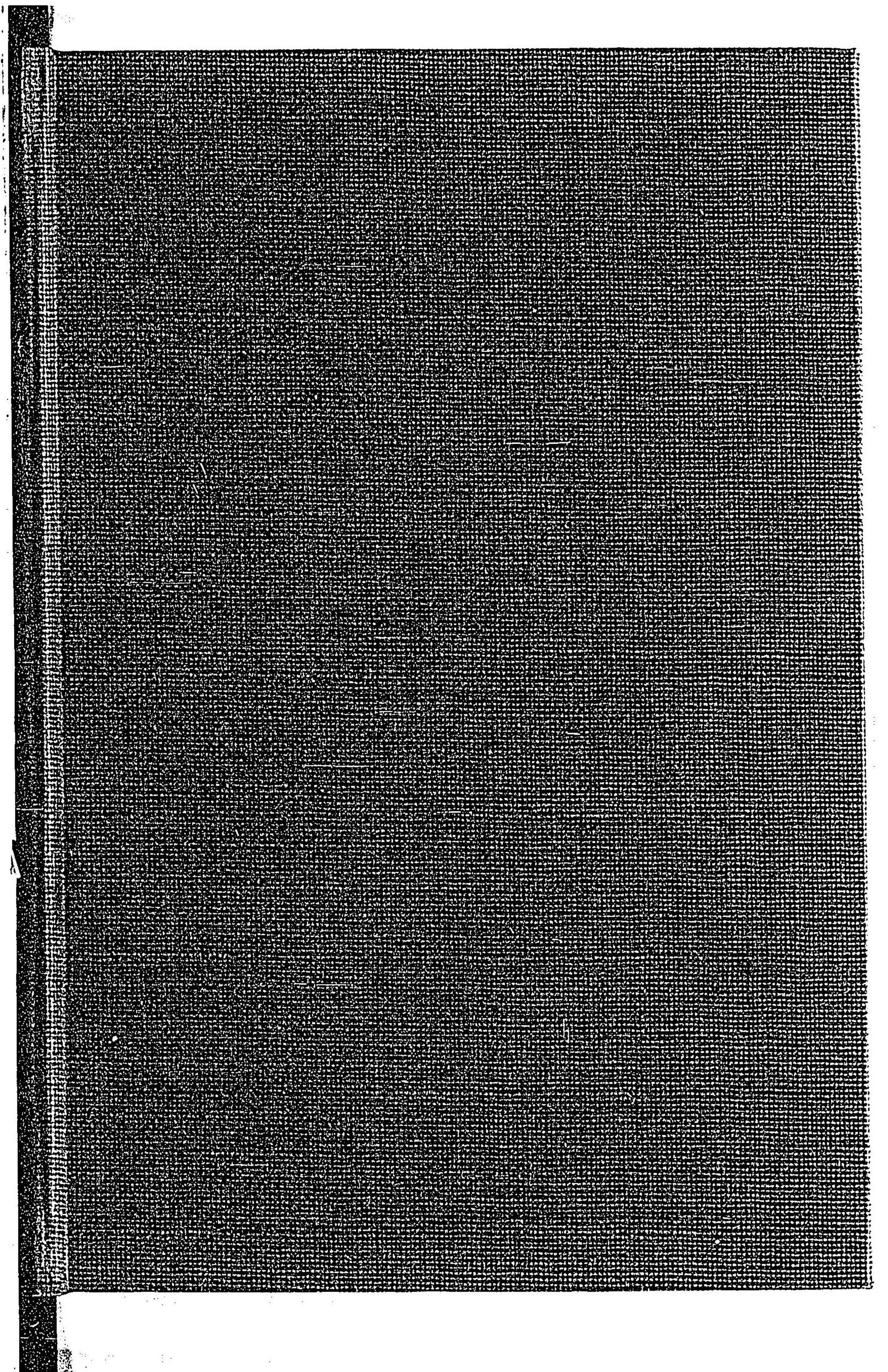
神代

四號郡長分任條件中第九項第三十一項

○訓令甲第三百三十五號 明治廿二年八月一日 郡役所 町村役場

地方税ヲ以テ支辨スヘキ道路橋梁治水堤防等改築修繕ニ係ルモノハ關係町
村長ヨリ直ニ土木區監督所ニ申出ツヘシ地方税補助ニ係ル工事ノ出願等ハ
郡役所及監督所ヲ經由シテ差出スヘシ





禁電子式複写

031381-001-2

CZ-1113-24-09

福島県令達全書

徳江 末晴 / 編

M22

BBD-0658



